



2025-26年度 地区大会記録誌

手に手つないで 革新的な行動をしよう!

TAKE ACTION TOGETHER!
MAKE INNOVATION!



日程：2026年3月7日(土)・8日(日)

会場：神戸ポートピアホテル

UNITE FOR GOOD

国際ロータリー会長メッセージ



2025-26 年度
国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツォ

ロータリーリーダーの皆さま

ロータリー地区大会にお集まりいただいた皆さまを、心より歓迎いたします。地区大会は、共に達成したことを振り返り、革新的なアイデアを分かちあい、未来に向けてさらに強いロータリーを築いていく準備をする機会となります。

本年度、私たちはよいことのために手を取りあいます。ロータリーを成長させ、行動計画に命を吹き込み、ポリオを永遠に根絶し、そのレガシーを土台として新たな課題に立ち向かうなど、私たちには大きな仕事が待ち受けています。

次世代の参加を促し、自分たちの視野を広げ、ロータリーの使命に新鮮な活力をもたらすために、夢を大きく持ちましょう。また、そのために協力して新クラブを設立し、柔軟な例会形式を採用し、地区間の協力を促しましょう。機会は無限大です。

今地区大会では、将来の可能性に目を向け、達成を共に祝いながら、よいことのために手を取りあっていただけることを願っております。

心を込めて

A handwritten signature in black ink, likely of Francesco Aletto, the president mentioned in the text. The signature is stylized and cursive.



目 次 Contents

国際ロータリー会長メッセージ

目 次	1
-----	---

写真コーナー

受付／友愛の広場	2
エクスカージョン／大会特別委員会	3
会長・幹事会／地区指導者育成セミナー	4
ロータリーファミリーの集い	5
国際ロータリー会長代理ご夫妻歓迎晩餐会	6
本会議	7～8
会員家族懇親会	9

大会プログラム

会長・幹事会

ガバナー挨拶および報告	11
2024-25年度 地区決算報告	11

ロータリーファミリーの集い

開会挨拶	12
------	----

地区指導者育成セミナー

講話「ロータリーを育てよう」	13
国際ロータリー会長代理 佐藤芳郎	
講話「ポリオと平和フェローシップ」	16
元国際ロータリー理事／元ロータリー財団管理委員／三木 明 (公財)ロータリー日本財団理事長	

本会議

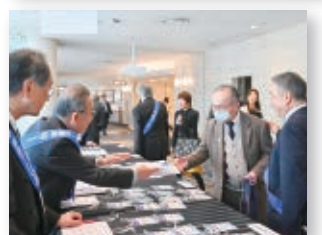
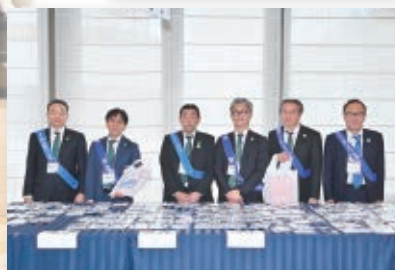
地区大会実行委員長挨拶	19
ガバナー挨拶	20

ホストクラブ会長挨拶	20
兵庫県知事祝辞	21
姫路市長祝辞	22
国際ロータリー会長代理挨拶並びに 国際ロータリー現況報告	23
記念講演「ポリオとロータリーについて」 (公財)結核予防会 理事長 尾身 茂氏	26

地区現況報告	29
大会特別委員会報告	31
大会登録委員会報告	
大会信任状委員会報告	
大会決議案上程	
大会決議案採択	
ガバナー指名委員会報告	
25-26 地区大会決議	32
ガバナーエレクト挨拶	33
ガバナーノミニー挨拶	34
ガバナーノミニー・デジグネート挨拶	35
参加クラブ代表挨拶	36
次年度ホストクラブ会長挨拶	36
所感	37
謝辞	37

表彰	38
物故会員	47
地区大会役員・大会特別委員会／ 実行委員会組織	48
参加者	50
編集後記	53

受付



友愛の広場



エクスカーショ

北野テラスにてランチ・生田神社 参拝



大会登録委員会



大会決議委員会



大会信任状委員会



地区資金委員会



ガバナー指名委員会

大会特別委員会



会長・幹事会



地区指導者育成セミナー

ロータリーファミリーの集い



フィオナ・チタ・ディヴィさん

デヴァ美穂さん



国際ロータリー会長代理ご夫妻歓迎晩餐会



ピアノ 川瀬 健



ベース
宮野 友巴



アルトサックス
河田 健



ドラム 藤田 洋



アトラクションジャズ 川瀬健トリオ+河田健



本 会 議



【国際ロータリー現況報告】
佐藤芳郎国際ロータリー会長代理

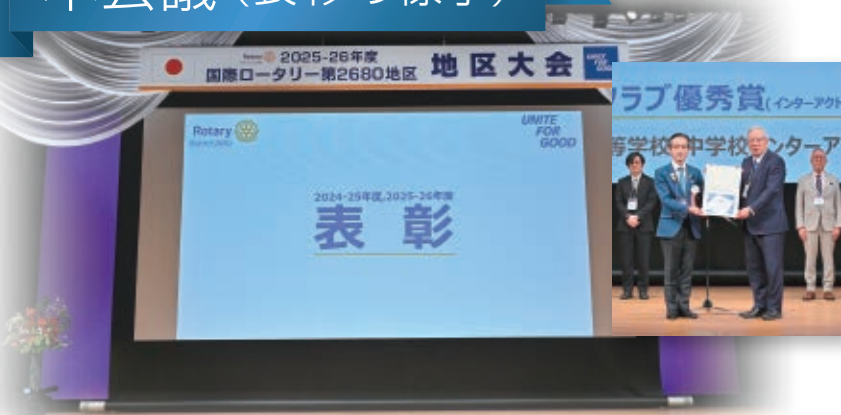


【記念講演】「ポリオとロータリーについて」
公益財団法人結核予防会理事
尾身 茂氏



【地区現況報告】
城 守ガバナー

本会議（表彰の様子）



クラブ優秀賞



年次基金寄付優秀クラブ(1人あたり)



年次基金寄付優秀クラブ(寄付額)



米山寄付達成クラブ



100%ポール・ハリス・フェロークラブ



ロータリー在籍 55年



ロータリー在籍 50年/100%連続出席 50年

会員家族懇親会



大会プログラム

大会プログラム 1日目

友愛の広場

会場：大輪田の間 ホワイエ

3月7日 販売 13:00~18:00
3月8日 販売 9:00~17:00

エキスカッション

11:20 神戸ポートピアホテル出発
神戸北野テラス&生田神社 参拝
15:30 神戸ポートピアホテル到着

大会特別委員会 会場：南館地下1階 カトレア・ライラック・ルビー

13:00 大会登録委員会／大会信任状委員会／大会決議委員会
13:30 地区資金委員会／ガバナー指名委員会
13:50 各委員会閉会

会長・幹事会

会場：南館1階 大輪田の間C

司 会：三木 健義
14:00 開 会
開会点鐘 ガバナー 城 守
挨拶および報告 ガバナー 城 守
挨拶 地区ラーニングファシリテーター 滝澤 功治
決算報告 直前会計長 笹倉 宣也
監査報告 直前会計監査 飯田 健一
質疑応答
承認 ガバナー 城 守
閉会点鐘 ガバナー 城 守
14:30 閉 会

ロータリーファミリーの集い 会場：南館1階 大輪田の間A

司 会：RYLA学友
14:30 開 会
開会挨拶 学友委員長 永松 潔和
挨拶 国際ロータリー会長代理 佐藤 芳郎
挨拶 ガバナー 城 守
参加者紹介
14:55 環境のポスター表彰式 環境小委員長 中井 章詞
青少年交換生紹介 青少年交換学友会会長 海老名ひなた
RYLA紹介
各学友 経験談紹介 米山学友 フィオナ・チタ・ディウイ
青少年交換学友 デヴァ美穂
テーブルディスカッション
懇親会 乾杯挨拶 青少年奉仕委員長 黒田 建一
閉会の言葉 学友副委員長 秦 紳一郎
17:00 閉 会

地区指導者育成セミナー

会場：南館1階 大輪田の間C

司 会：三木 健義
14:40 開 会
国際ロータリー会長代理紹介並びに挨拶 ガバナー 城 守
講話「ロータリーを育てよう」 国際ロータリー会長代理 佐藤 芳郎
講話「ポリオと平和フェローシップ」
元国際ロータリー理事／(公財)ロータリー日本財団 理事長 三木 明
閉会挨拶・所感 ガバナーエレクト 白井 務子
16:50 閉 会

国際ロータリー会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

会場：南館1階 大輪田の間B

司 会：山野 正豊
18:00 開 宴
挨拶 地区大会実行委員長 竹田 佑一
ご来賓紹介並びに挨拶 ガバナー 城 守
挨拶 国際ロータリー会長代理 佐藤 芳郎
乾 杯 元国際ロータリー理事／(公財)ロータリー日本財団 理事長 三木 明
食事・歓談
アトラクション ジャズ 川瀬健トリオ+河田健
閉宴の言葉 地区大会実行副委員長 津田 隆雄
20:30 閉 宴

大会プログラム 2日目

本会議

会場：ポートピアホール

司 会：近藤 誠一

10:00 オープニングアトラクション
兵庫県伝統文化研修館 花笠かぶき人間塾
「さくらチーム」&菊司会

10:20 開 会
開会点鐘 ガバナー 城 守
日本国歌斉唱
我等の生業斉唱 ソングリーダー 日下部 聡
挨拶 地区大会実行委員長 竹田 佑一
挨拶 ガバナー 城 守
歓迎挨拶 ホストクラブ会長 宮崎 眞彰
兵庫県知事祝辞 兵庫県知事 齋藤 元彦
姫路市長祝辞 姫路市長 清元 秀泰
ご来賓紹介 ガバナー 城 守
ガバナー諮問委員会、地区委員長紹介
ガバナー 城 守

参加クラブ紹介 各ガバナー補佐
プロバスクラブ、ローターアクトクラブ紹介
物故者黙とう
国際ロータリー会長代理挨拶並びに
国際ロータリー現況報告
国際ロータリー会長代理 佐藤 芳郎

..... 昼食(12:00~13:00)

13:00 記念講演「ポリオとロータリーについて」
(公財)結核予防会 理事長 尾身 茂氏
地区現況報告 ガバナー 城 守

..... 休憩(15:00~15:15)

15:15 表 彰
大会登録委員会報告 委員長 鎌谷 正弘
大会信任状委員会報告 委員長 矢坂 誠徳
大会決議案上程 委員長 阪上 栄樹
大会決議案採択 ガバナー 城 守
ガバナー指名委員会報告 委員長 高瀬 英夫
ガバナーエレクト紹介 ガバナー 城 守
挨拶 ガバナーエレクト 白井 務子
ガバナーノミニ紹介 ガバナー 城 守
挨拶 ガバナーノミニ 田中 正喜
ガバナーノミニ・デジグネート紹介
ガバナー 城 守
挨拶 ガバナーノミニ・デジグネート 中村 滋彦
参加クラブ代表挨拶
尼崎東ロータリークラブ会長 近 知史
次年度ホストクラブ発表 ガバナー 城 守
次年度ホストクラブ挨拶
姫路東ロータリークラブ会長 河本 一郎
所 感 国際ロータリー会長代理 佐藤 芳郎
記念品贈呈 ガバナー 城 守
謝 辞 ガバナー 城 守
閉会点鐘 ガバナー 城 守
16:30 閉 会

会員家族懇親会

会場：南館1階 大輪田の間

司 会：三木 崇弘

16:45 開 宴
挨拶 ガバナー 城 守
挨拶 国際ロータリー会長代理 佐藤 芳郎
乾 杯 パストガバナー 安平 和彦
アトラクション
スティールオーケストラ FANTASTICS
手に手つないで ソングリーダー 日下部 聡
閉宴挨拶 地区大会実行副委員長 高島隆三郎
18:45 閉 宴

◆ ガバナー挨拶および報告



2025-26 年度
ガバナー

城 守 (姫路)

皆さま、おはようございます。国際ロータリー第2680地区ガバナーの城守でございます。本日は、地区大会に先立つ会長・幹事会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また日頃より、それぞれのクラブにおいてロータリー活動の推進にご尽力いただいておりますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

ロータリーの活動は、地区が主体ではなく、クラブが主体です。そしてクラブを動かしているのが、会長・幹事の皆さまであります。皆さまのリーダーシップが、2680地区のロータリーの力そのものと言っても過言ではありません。

本年度、国際ロータリーのメッセージは、「UNITE FOR GOOD よいことのために手を取りあおう」であります。世界は今、気候変動、感染症、紛争、人道危機など、さまざまな複合的課題に直面しています。このような時代においてこそ、世界中に広がるロータリーのネットワーク、そしてロータリアン一人ひとりの行動が大きな意味を持ちます。

そこで私は、本年度の地区行動指針として、「TAKE ACTION TOGETHER! MAKE INNOVATION! 手に手つないで 革新的な行動をしよう!」というメッセージを掲げました。ロータリーの力は、一人ではなく仲間とともに行動するところにあります。そしてクラブの活力は、会長・幹事のリーダーシップによって生まれます。

皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

◆ 2024-25年度 地区決算報告

● 決算報告



直前会計長

笹倉 宣也 (神戸西)

資料に基づき、2024-25年度の決算報告がなされた。

● 監査報告



直前監査委員長

飯田 健一 (神戸南)

監査の結果、本決算報告に疑義がないことの報告がなされた。

● 決算承認

城守ガバナーより決算に対する承認が諮られ、会場内賛成多数で2026年3月7日(土)付けにて、2024-25年度決算が承認された。



〔開会挨拶〕



2025-26年度
学友委員長
永松 潔和 (神戸)

ロータリーファミリーの集いは1996年松岡PGの時、地区大会のプログラムに青少年の参加するプログラムがないことから考案されました。当時は青少年の集いという名称でしたが、新世代の集い、そしてロータリーファミリーの集いと名称を変えながらも30年間続いています。

ロータリーにはインターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、青少年交換、RYLA、米山奨学生、財団奨学生のロータリーファミリーのプログラムがあり、いずれも活発に活動されています。しかし、お互い他のプログラムとの交流は少なく理解が乏しいのが現状でした。その為今年は青少年プログラム経験者による体験談を話してもらうことにしました。

先ず、最初にインターアクト、その後青少年交換、ローターアクト、RYLAと経験されたデヴァ美穂さんに、次に米山奨学生となり、その後ローターアクト、RYLAを経験されたフィオナ・チタ・ディヴィさんにお話いただきました。このお話から他のプログラムの素晴らしさを感じてもらい、他のプログラムにも積極的に参加していただきたいと思います。

ロータリーの目的の第1項目に「知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること」とありますので、このロータリーファミリーの集いを通じて知り合いを広め、ロータリーの精神を知ってもらい、各団体の活動の幅を広めていってほしいと思ってこの会を開催しております。

来年度もロータリーファミリーの集いはありますので、ぜひ皆さん参加してください。



◇環境のポスター表彰式

地区内ロータリーファミリーを対象に「社会奉仕委員会環境小委員会」により「環境のポスター」の募集が行われました。審査委員会による厳正なる審査の結果、以下の作品が受賞され、各部門の最優秀賞受賞者にご登壇いただきます。

インターアクトクラブ部門

最優秀賞：個人 角岡 芽依 (つのおか めい)
兵庫県立豊岡総合高等学校
2位：個人 西澤 茉大 (にしざわ まひろ)
神戸学院大学附属中学校
3位：個人 仲 穂香 (なか ほのか)
神戸学院大学附属中学校

ローターアクト・学友部門

最優秀賞：団体 神戸 西藤 圭佑 (会長)
山本 竜輝 若松 美樹
小倉 陸 藤野 広大
2位：団体 豊岡 小田 葵 (会長)
尾崎 向日葵 山川 ゆりの
3位：個人 柏原 青山 翔太

◇学友経験談

PROFILE

フィオナ・チタ・ディヴィ
(元米山奨学生・元ローターアクト・RYLA修了生)



2016-2017年 米山奨学生として流通科学大学 修士 卒業
2017年10月 神戸ローターアクトクラブ入会
2018年3月 第40回RYLA修了生
2020-2021年度 神戸ローターアクトクラブ会長
2022年 ローターアクト卒業
学生時代から現在に至るまで、人と人が手を取り合うことで生まれる学びと行動の広がりを、継続して実感しています。

デヴァ美穂

(元青少年交換派遣生・元ローターアクト・RYLA修了生)



2005年 神戸山手女子インターアクトクラブ 入部
2008-09年 青少年交換プログラム参加(アメリカのオレゴン州へ派遣)
2010年 神戸ローターアクトクラブ入会(2022年卒業)
2013-14年 神戸ローターアクトクラブ会長
2014年 第36回RYLA修了生
2018-19年 神戸ローターアクトクラブ 副会長/2680地区青少年交換学友会 副会長

講話「ロータリーを育てよう」



国際ロータリー会長代理
佐藤 芳郎 (2690地区 岡山南)

皆さま、こんにちは。私は、2025-26年度国際ロータリー フランチェスコ・アレツツォ会長より、国際ロータリー第2680地区へ会長代理として派遣されました、岡山南ロータリークラブ所属、元国際ロータリー理事の佐藤芳郎です。このような歴史と伝統にあふれる2680地区へお招きいただきましたことを、大変光栄に思っております。

本日のテーマは、「ロータリーを育てよう」です。現在、ロータリーは世界的に会員減少という大きな課題に直面しております。仲間を増やし、ロータリーをさらに発展させていきたい。そのような思いから、本日はロータリーの現況と、これから私たちが考えるべき方向性についてお話をさせていただきます。

私はいつも講演の冒頭で皆さまに、「ロータリーを楽しんでいますか?」、「ロータリーは好きですか?」という二つの質問をしています。

今回も多くの方が手を挙げてくださいました。私は、この「楽しむこと」と「好きになること」が、ロータリー活動の根本にあると考えています。ロータリーが楽しくなければ、友人を誘うこともできませんし、クラブの活性化にもつながりません。まずは、自分たち自身がロータリーを楽しみ、好きになることが大切だと思っています。

まず、国際ロータリーについて少しお話しします。国際ロータリーの本部はアメリカ・シカゴにあります。1905年、ポール・ハリスをはじめとする4人の創設者によってロータリーは誕生しまし

た。当時のシカゴは、すでに高層ビルが立ち並ぶ近代都市でありながら、街にはまだ馬車が走っていた時代でした。そのような時代に、「職業人が友情を通じて社会に貢献する」という理念のもと、ロータリーがスタートしたのです。私は、創設者ポール・ハリスの言葉が非常に重要だと思っています。「もしロータリーがその目的を達成したのであれば、常に進化し、時には革命的でなければならない。」

まさに現在のロータリーは、その言葉を改めて問われている時代ではないでしょうか。

現在の国際ロータリーは、「行動計画（アクションプラン）」を軸に活動を進めています。その中で示されているのは、「今日のロータリー」と「なりたいロータリー」の間には大きなギャップがあるという問題提起です。

ロータリーには長い歴史と強い土台があります。しかし、社会環境や人々の価値観が大きく変化する中で、従来のやり方だけでは未来へつながっていかない部分もあります。そのため、国際ロータリーは「インパクトを高める」「参加者の基盤を広げる」「参加者の積極的な関わりを促す」「適応力を高める」という四つの優先事項を掲げています。

また、本年度の国際ロータリー会長メッセージである「UNITE FOR GOOD（良いことのために手を取り合おう）」についてもお話をいたしま

す。この言葉は、国際ロータリーのビジョン声明にある「People Unite」と、ロータリー財団の「Doing Good」を組み合わせたものです。

ロータリーのビジョン声明には、「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取りあって行動する世界を目指しています」とあります。私は、この言葉こそ現在のロータリーが目指している方向そのものだと思っています。

そして、ロータリーの奉仕の最終目標は「世界平和」です。その象徴的な活動が、ポリオ根絶活動です。長年にわたる取り組みにより、ポリオ患者数は劇的に減少しました。あと一步のところまで来ています。さらに、平和センターの設立や各地での人道的奉仕活動など、ロータリーは世界規模で平和構築に取り組んでいます。

しかし、その一方でロータリーは世界的な会員減少という課題を抱えています。2016年には120万人を超えていた会員数が、2025年には112万人まで減少しました。特にアメリカ、イギリス、

オーストラリアなど、従来ロータリーを支えてきた国々で大きく減少しています。

日本でも同様です。かつて13万人近くいた会員数は、現在約8万人まで減少しています。COVID-19の影響も大きかったと思いますが、それだけではありません。私たちは、「なぜ仲間を増やせないのか」を真剣に考えなければなりません。

会員増強について話をすると、「候補者がいない」「若い人が興味を持たない」「敷居が高いと思われる」「退会者が多い」といった理由が次々に出てきます。しかし私は、できない理由を考えていても前には進めないと思っています。できない理由はいくらでも出てきます。大切なのは、「どうすればできるか」を考えることです。

そのためには、まず自分たちのクラブが魅力的であるかを考える必要があります。

「ロータリーはつまらないですか？」

「友人を誘えますか？」

私は、この問いを非常に大切にしています。

もしクラブが楽しく、会員同士が信頼し合い、居場所があり、奉仕活動を通じて充実感を得られるのであれば人は辞めません。そして自然と友人を誘うようになります。ロータリーを育てるためには、まず既存クラブの活性化が重要なのです。

さらに、国際ロータリーは新しいタイプのクラブづくりも提唱しています。衛星クラブ、パスポートクラブ、法人クラブ、活動分野に基づくクラブなど、多様な形態が認められるようになりました。例えば法人クラブでは、一つの企業や大学の中でロータリークラブを作ることも可能です。実際に日本でも、大学を基盤としたクラブが活動しています。また、フードバンクや子ども支援など、特定の奉仕活動に特化したクラブも増えています。私は、こうした柔軟な発想が、これからのロータリーには必要だと思っています。

特に印象的だったのは、大学基盤のロータリーアクト会員から聞いた、「私たちは、おしゃれで楽





しいロータリー活動をしています」という言葉でした。私は、この「おしゃれ」という感覚に驚かされました。私たち世代にはなかなかない発想です。しかし、若い世代は、そのような感覚を大切にしています。

例えば、傷がついて販売できない桃を活用し、ジュースとして販売して活動資金にするなど、若い世代らしい柔軟な発想で奉仕活動を展開しています。私は、こうした新しい感覚や価値観を、ぜひロータリーにも取り入れていくべきだと思っています。もちろん、ロータリーには長い歴史と伝統があります。しかし、「歴史と伝統」という言葉が、時としてマンネリ化につながってしまうこともあります。だからこそ、新しい歴史と伝統を積み重ねていく必要があるのではないのでしょうか。

また、私は「3-Year Rolling Goals（3年間の継続目標）」も大変重要だと考えています。ロータリーは長らく単年度主義で運営されてきました。しかし、単年度だけでは継続的な成長が難しい場面もあります。会長・会長エレクト・会長ノミニーが連携し、3年間の目標を共有しながらクラ

ブ運営を行うことで、より大きな成果につながると思っています。

さらに、ホルガー・クナーク会長年度のテーマであった「Rotary Opens Opportunities（ロータリーは機会の扉を開く）」についても触れました。ロータリーには、多くの機会があります。しかし、その扉を開くのは、会長でも誰か他人でもなく、自分自身です。一人ひとりが、自分で開きたい扉を選び、自ら行動することが重要です。奉仕でも親睦でも、自分から踏み出さなければ、本当のロータリーの魅力は見えてきません。

最後に、私はロータリーを次世代へしっかり引き継いでいきたいと思っています。ロータリーを楽しみ、その素晴らしさを友人や若い世代へ伝えていくこと。それが、ロータリーを育てることにつながります。皆さまで一人ひとりがロータリーを活用し、自ら扉を開き、夢を追いかけていただきたいと思います。そして、その活動を通じて、自分自身の人生をさらに豊かなものにしていただければ幸いです。

ご清聴ありがとうございました。

講話「ポリオと平和フェローシップ」



元国際ロータリー理事
元ロータリー財団管理委員
(公財)ロータリー日本財団理事長
三木 明 (姫路)

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、このようにお集まりいただき、誠にありがとうございます。今日は「ポリオと平和フェローシップ」というテーマでお話しさせていただきます。少し難しい内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくお伝えしたいと思いますので、しばらくお耳をお貸しいただければ幸いです。

ロータリーが現在掲げている最大の使命は、世界からポリオを根絶することです。皆さまのご協力のおかげで、世界のポリオ発症数は劇的に減少し、私たちは今、歴史的な達成に手が届くところまで来ています。「もう少しで根絶できる」という期待が世界中で高まっています。

ロータリーは7つの重点分野を掲げています。平和の推進、安全な水と衛生、疾病との闘い、母子の健康、教育と識字率の向上、地域経済の成長、そして地球環境の保護です。これらは一見別々の分野のように見えますが、実はすべてがつながっています。特にポリオ根絶は、これらの重点分野の基盤となる取り組みです。なぜなら、健康が守られなければ教育も経済も成り立たず、平和も維持できないからです。

私たちが子どもの頃、「小児麻痺」と呼ばれていた病気がポリオです。急性灰白髄炎という名前のおとおり、脊髄の灰白質がウイルスによって侵され、手足に麻痺が残ることがあります。重症の

場合は呼吸筋が麻痺し、命を落とすこともあります。人類の歴史の中で、ポリオは長い間、子どもたちを苦しめてきました。しかし、天然痘に続き、ポリオは人類が根絶できる病気とされています。

ポリオが根絶されれば、2050年までに約5,000億ドル、現在の日本円で約75兆円もの経済効果があると試算されています。医療費の削減だけでなく、社会的な負担が大幅に軽減されるためです。つまり、ポリオ根絶は人道的な意義だけでなく、経済的にも非常に大きな価値を持っています。

1980年代まで、ポリオは世界で毎年35万人以上の子どもを麻痺に追い込んでいました。1985年、ロータリーは「ポリオプラス」プログラムを開始し、世界からポリオをなくすという大きな目標を掲げました。これは当時としては非常に大きな挑戦でしたが、ロータリーはその実現に向けて世界中で活動をしてきました。

1988年には、ロータリー、WHO、ユニセフ、CDCが中心となり、世界ポリオ根絶推進計画(GPEI)が発足しました。2007年からはゲイツ財団も加わり、強力な資金支援を行っています。GPEIは世界最大規模の公衆衛生パートナーシップであり、国際ロータリーはその中心的な役割を担っています。

ポリオウイルスは感染者の糞便から排出され、水や食べ物を通じて広がります。特に5歳未

満の子どもが多く発症します。麻痺が起きると回復は困難で、治療法はなく、予防法はワクチンだけです。

ポリオウイルスには1型、2型、3型がありますが、野生株のうち2型と3型はすでに根絶されました。残るは1型だけです。2026年2月25日付けでは、パキスタン、アフガニスタン両国ともに0件と報告されています。1988年以降、発症数は99.9%減少しましたが、野生株が残る限り、世界中の子どもたちは感染リスクにさらされ続けます。

近年は、ワクチン由来のポリオも問題となっています。アフリカ各地、さらには、ニューヨーク、ロンドンの下水からもワクチン由来ウイルスが検出されました。神戸でも十数年前にワクチン由来の感染者が出ました。その子どもが「最後の患者」であってほしいという強い願いがあります。

不活化ポリオワクチンは安全性が高く、先進国ではすでに切り替え済みです。日本でも2012年から注射タイプに移行し、1歳未満の接種率は95.5~100%に達しています。一方、

発展途上国では経口ワクチンが使われています。コストが安く、集団免疫の形成に有効ですが、弱毒化ウイルスが変異し、病原性を取り戻すことがあります。

昨年も、フロントワーカーたちが数億人の子どもにワクチンを届けました。パキスタンでは大規模な洪水があり、アフガニスタンでは政治的な不安定さが続き、気温は50度近くに達することもあります。そんな過酷な状況の中でも、彼らは長距離を移動し、粘り強く活動が続けています。

男性が家に入れない地域では、女性のフロントワーカーが欠かせません。彼女たちは家々のドアを叩き、5歳未満の子どもがいればその場でワクチンを投与します。翌月にはまた新しい子どもが生まれていますから、同じ地域を何度も訪れなければなりません。こうした地道な活動が、ポリオ根絶に向けた大きな力になっています。

ワクチンそのものは2滴で数十円ですが、運ぶためにはアイスボックスが必要ですし、フロントワーカーの活動費、給料、そしてサーベイランスには多額の費用がかかります。サーベイランスとは、ウイルスの遺伝子を分析し、どの地域の株から派生したものかを突き止める仕組みです。どのウイルスがどこで発生し、どうつながっているのかを把握しなければ効果的な対策は打てません。

ロータリーは年間5,000万ドルの支援を目標にしています。私たちが5,000万ドルを集めると、ゲイツ財団がその2倍、1億ドルを上乗せしてくれます。つまり、私たちの5,000万ドルが1億5,000万ドルになるわけです。

アフガニスタンでは、すでに1,300万人以上の5歳未満の子どもが予防接種を受けています。集団免疫は維持され、野生株1型の拡大も封じ込められています。パキスタンでは市民や政府の理解が比較的得られていますが、貧困層への医療提供が課題です。ロータリーの寄付総額は5億330万ドルに達し、全国予防接種デーでは5,420万人の子どもが対象となります。



国境では、アフガニスタンから来るバスを24時間体制で止め、5歳未満の子どもにワクチンを投与しています。バスの屋根にまで人が乗っていることもあり、軍や警察が協力しながら、ロータリアンやフロントワーカーがバスに乗り込み、子どもを探してワクチンを投与します。昨年末、姫路ロータリークラブからパキスタンのフロントワーカーへ白衣180着を贈りました。白衣は医療者としての信頼性を高めるために重要で、現地では大変喜ばれています。特にコート型の長い白衣が求められています。

平和フェローシップについてお話しします。ロータリー平和センターは1999年に構想され、これまでに1,800人以上の平和フェローが卒業しています。現在、インド・プネーのシンビオシス国際大学に新たな平和センターが設立される予定です。

日本では国際基督教大学（ICU）が平和センターを担い、平和構築の理論と実践を学ぶ学生たちが世界へ羽ばたいています。

ガルトゥング博士は「積極的平和」と「消極的平和」を提唱しました。消極的平和は戦争や暴力がない状態、積極的平和は貧困や差別など暴力の根源が取り除かれ、人間の尊厳が守られた状態です。

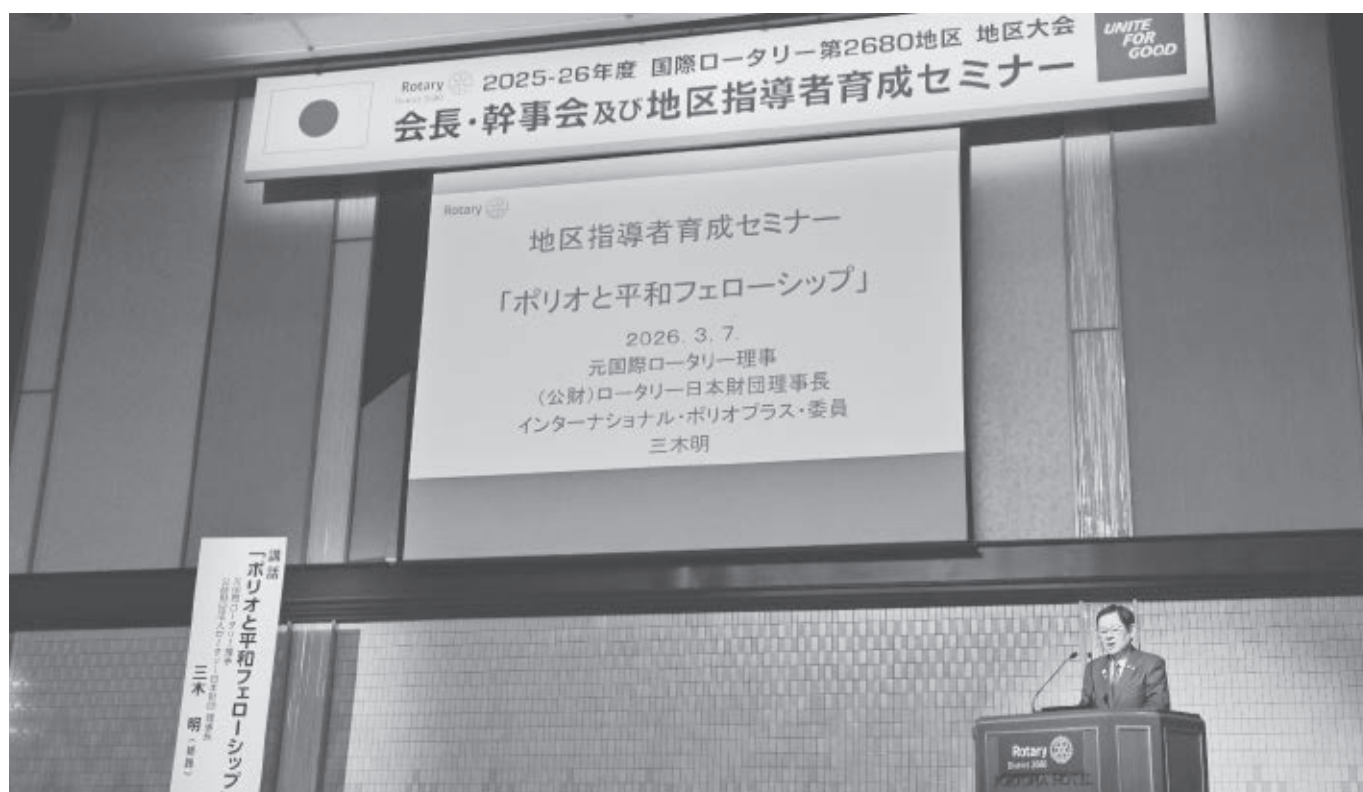
積極的平和には8つの要素があります。政府の機能、人権尊重、情報の自由、腐敗の少なさなどが含まれます。また、平和構築にはピースキーピング、ピースメイキング、ピースビルディングという3段階があります。

ICUの学生たちは広島を訪れ、被爆者の証言を聞き、平和への理解を深めています。

ポリオと平和は一見つながりが薄いように見えますが、どちらも「人間が尊厳を持って生きられる世界」をつくるための取り組みです。

世界のどこかにポリオが残る限り、私たちは安心できません。そして、暴力や不平等が残る限り、平和は実現しません。皆さまのご理解とご支援が、世界の子どもたちの未来を守ります。

本日はご清聴ありがとうございました。



〔地区大会実行委員長挨拶〕



2025-26 年度
地区大会実行委員長
竹田 佑一（姫路）

国際ロータリー第2680地区 2025-26年度地区大会を開催するにあたり、大会関係者を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。本大会には、フランチェスコ・アレツォ国際ロータリー会長の代理として、2690地区岡山南ロータリークラブ所属の元国際ロータリー理事佐藤芳郎様・享子令夫人にご臨席賜っております。誠にありがとうございます。

地区内外からは、ガバナー及びパートナー、パストガバナー、並びに多くのロータリアンをお迎えし、かくも盛大に開催することができましたことを心から御礼申し上げます。また、兵庫県知事齋藤元彦様、姫路市長 清元秀泰様をお迎えし、錦上花を添えていただきましたことに重ねて御礼申し上げます。

開催に至るまでホストクラブである姫路クラブ会員一同、力を合わせて準備を整えてまいりましたが、不行き届きの点多々あろうかと存じます。何卒お許しいただきたく、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

さて本大会では、佐藤国際ロータリー会長代理より、アレツォ国際ロータリー会長のお考えについてご説明いただき、国際ロータリーの現況についてもご報告をいただきます。午後からは記念講演として、日本中がコロナ禍の際、ご尽力いただいた結核予防会理事長尾身茂先生をお迎えしております。

今年度城守ガバナーの行動指針に基づき、革新・継続性・パートナーシップの3つの柱で会員増強と活性化を目指すためにも、会員同志のつながりが大切とおっしゃっています。本大会が皆さま方やクラブにとって、革新的な行動を起こすつながりの一助となれば幸いです。

また、本会議終了後の会員家族懇親会では神戸・新長田を拠点に活動するスティールパンの市民楽団「FANTASTICS」による演奏、独特の倍音の響きを持った音色とともに大いに交流しご歓談ください。

本大会を通じて共に学び、親睦を深めていただければ幸いです。



〔ガバナー挨拶〕



2025-26 年度
ガバナー

城 守 (姫路)

皆さま、おはようございます。国際ロータリー第2680地区ガバナーの城守でございます。本日は、国際ロータリー第2680地区 地区大会に、多くのロータリアン並びにご来賓の皆さまにご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。

特に、ご多忙の中ご出席いただきました、兵庫県知事 齋藤元彦様、姫路市長 清元秀泰様、そして国際ロータリー会長代理 佐藤芳郎様をはじめ、国際ロータリーのリーダーの皆さま、またロータリー活動を支えてくださっているパートナーの皆さまに、地区を代表して心より感謝申し上げます。

皆さまのご理解とご支援があつてこそ、私たちロータリーの奉仕活動は地域社会の中で力強く展開することができております。この場をお借りして、改めて深く御礼申し上げます。

本年度、国際ロータリーのメッセージは、
「**UNITE FOR GOOD よいことのために手を
取りあおう**」であります。

そして私は今年度、地区行動指針として、

**「TAKE ACTION TOGETHER !
MAKE INNOVATION !**

手に手つないで 革新的な行動をしよう！」

というメッセージを掲げております。

本日の地区大会が、ロータリーの友情を深め、学びを共有し、そして新たな奉仕の一步へつながる有意義な機会となることを願っております。

それでは、ただいまより、国際ロータリー第2680地区 地区大会本会議を開会いたします。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

〔歓迎の挨拶〕



2025-26 年度
ホストクラブ会長

宮崎 眞彰 (姫路)

ホストクラブを代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

国際ロータリー第2680地区2025-26年度地区大会にご出席いただき誠にありがとうございます。齋藤元彦兵庫県知事、清元秀泰姫路市長、佐藤芳郎国際ロータリー会長代理ご夫妻をはじめとするご来賓の方々、そして地区内外から多数のロータリアンとご家族をお迎えして、かくも盛大に地区大会が開催できましたことを心より厚くお礼申し上げます。

本年度、国際ロータリーのフランチェスコ・アレツォ会長は、「よいことのために手を取りあおう (UNITE FOR GOOD)」というメッセージを発表されました。このメッセージには政治、地理、イデオロギーでますます分断されている世界において結束する力となるようロータリー会員に呼びかけるものです。

本年度2680地区の城守ガバナーはこのメッセージを受けて、

**「TAKE ACTION TOGETHER !
MAKE INNOVATION !**

手に手つないで 革新的な行動をしよう！」

をガバナーの行動指針とされています。国際ロータリー会長メッセージ、またガバナー方針を理解して実践してまいります。

この大会が皆様にご満足していただける地区大会となりますよう祈念いたしまして歓迎のご挨拶とさせていただきます。

〔兵庫県知事祝辞〕



兵庫県知事

齋藤 元彦

国際ロータリー第2680地区2025-26年度地区大会の開催を心からお祝い申し上げます。平素より地域社会に寄り添う奉仕の精神のもと、幅広い分野で活動いただいていることに感謝申し上げます。

昨年、阪神・淡路大震災から30年、終戦から80年という節目を迎えました。兵庫県の歩みを振り返る中で先人がつないでこられた平和、そして希望のバトンを未来へ引き継ぐという思いを県民の皆様と共有しました。昨年9月には「創造的復興サミット」を開催し、東日本大震災の被災地をはじめ全国そして海外の被災自治体の関係者と共に、復旧復興の経験と教訓をつないでいくことを「ひょうご宣言」として世界に発信するなど、力強い一歩を踏み出しました。災害リスクが高まる今だからこそハード・ソフト両面で対策を進めます。また、県民の身近な暮らしの安全安心を確保するため、特殊詐欺対策、医療・福祉・介護の充実などにも取り組んでまいります。

昨年は万博が開催され、神戸空港の国際空港への一歩も踏み出しました。万博を機に展開した、県内各地の素晴らしい農業や地場産業そして地域の営みを体験できる「フィールドパビリオン」を万博レガシーとして交流人口拡大につなげます。

昨今、イラン情勢をはじめ国際情勢が不安定化しています。日本国内そして本県でも、人口減少や気候変動など社会の構造変化が訪れてい

ます。こうした時代だからこそ、未来を拓いていく若い力を応援し、育んでいくことが重要です。ミラノ・コルティナ五輪やWBCでは、本県ゆかりの選手が活躍してくれました。スポーツをはじめ、ビジネス、芸術文化活動など様々な分野で活躍し、社会に大きな付加価値を生む人材の育成を県政の一丁目一番地として頑張ってまいります。

兵庫県は、日本海側から淡路まで多様な地域そして歴史文化がある素晴らしい県です。これからも皆様と共に兵庫県の発展に向けて頑張ってまいります。

最後に、国際ロータリー第2680地区のさらなるご発展と皆様のご活躍ご健勝を心からお祈り申し上げます。



〔姫路市長祝辞〕



姫路市長

清元 秀泰

国際ロータリー第2680地区2025-26年度地区大会が、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

城ガバナーをはじめ国際ロータリー第2680地区の皆さまにおかれましては、青少年の健全育成をはじめ環境保全活動など多岐にわたる奉仕活動を積極的に展開いただき、社会福祉の増進に大きく貢献されており、長年にわたる皆様のご尽力に深く敬意を表します。

国際ロータリー第2680地区では、「TAKE ACTION TOGETHER! MAKE INNOVATION! 手に手つないで 革新的な行動をしよう!」という地区方針のもと、献身的で質の高い奉仕を提供いただいております、少子化が加速し、人口減少がもたらす地域社会への影響が懸念される中、貴クラブが率先して取り組んでおられる社会奉仕活動は、地域の人々が安心してらせる社会を作るためになくてはならないものであると感じております。

本市におきましても、市民の皆さまに「姫路でくらしが良かった」「これからも姫路でくらしたい」と思っただけのまちづくりを成し遂げるため、子育て支援の強化、教育環境の整備、高齢者の生活支援など、「ひと」を育むための施策を推進しており、貴クラブもまた、これらの本市の取組と連携し、地域社会の安全・安心を支え

る重要な役割を果たしていただいております、引き続き、皆さまのお力添えを賜りながら市政を推進してまいります。

最後に、クラブが未来に向けて新たな歴史と伝統を刻んでいただきますことを期待するとともに、今後益々ご発展されますこと、そして会員各位のご健勝とご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。



〔国際ロータリー会長代理挨拶並びに国際ロータリー現況報告〕



国際ロータリー会長代理
佐藤 芳郎 (2690地区 岡山南)

皆さま、こんにちは。

私は、2025-26年度国際ロータリー フランチェスコ・アレツォ会長より、国際ロータリー第2680地区 地区大会の会長代理を拝命いたしました、岡山南ロータリークラブ所属、元国際ロータリー理事の佐藤芳郎です。このたび、このような歴史と伝統ある地区大会にお招きいただきましたことを、大変光栄に思っております。

2680地区と聞きますと、これまで日本のロータリーを牽引してこられた多くの素晴らしい先輩方がおられ、現在も多くの優れたロータリアンが活動されている地区という印象を持っております。そのような地区でお話をさせていただくことに緊張

もございましたが、本日は国際ロータリーの現況、そしてこれから私たちが目指していくべき方向について、率直にお話をさせていただきます。

本年度、国際ロータリーは「UNITE FOR GOOD (良いことのために手を取りあおう)」というメッセージを掲げています。この言葉は決して新しいものではなく、ロータリーが長年大切にしてきた理念の中から生まれてきた言葉であると感じています。

国際ロータリーのビジョン声明には、「Together, we see a world where people unite and take action」という言葉があります。また、ロータリー財



団には「Doing Good in the World (世界でよいことをしよう)」という理念があります。この二つが結び付いて、「UNITE FOR GOOD」というメッセージが生まれています。つまり、私たちロータリアンが力を合わせ、世界や地域社会に良い変化をもたらしていこうという、ロータリーの根本的な精神を表しているのです。

ロータリーのビジョン声明には、「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取りあって行動する世界を目指しています」とあります。私は、この言葉こそ現在のロータリーの方向性を最もよく表していると感じています。そして、その実現のためには、既に策定されている行動計画を十分に活用しながら、継続的に奉仕活動を実践していくことが大切であります。

現在、国際ロータリーが重点的に取り組んでいる課題の一つが、ポリオ根絶活動です。1988年には年間30万人を超えていたポリオ患者数が、2025年には47人、わずか2カ国にまで減少いたしました。これは、世界中のロータリアンをはじめ多くの関係団体や支援者の努力の成果であります。長年にわたる継続的な活動が、ここまで大きな成果につながっております。あと一步のところまで来ておりますので、私たちは最後まで力を尽くさなければなりません。

また、ロータリーは「平和」に対する取り組みにも力を注いでいます。現在、「ロータリー平和センター」は世界各地に設置されていますが、今年はトルコに続き、インドにも新たな平和センターの設立を進めています。平和の担い手となる人材を育成し、紛争予防や平和構築に貢献していこうという取り組みであります。

さらに、2025年度の大規模プログラム補助金では、「コロンビアにおける平和と繁栄の道」プログラムに対して支援が行われています。国連世界食糧計画から100万ドル、ロータリーから200万ド

ル、合計300万ドル規模のプロジェクトとして、紛争解決能力の向上や食糧支援、平和構築などに取り組んでおります。ロータリーは、単なる地域奉仕団体ではなく、世界平和の実現にも真剣に取り組んでいる組織であるということを、改めて感じていただければと思います。

また、2024-25年度のロータリー財団への寄付は、目標を大きく上回る5億6,900万ドルに達しました。さらに、恒久基金の目標であった20億2,500万ドルも達成することができました。加えて、1,424件のグローバル補助金、468件の地区補助金、74件の災害救援補助金が実施されました。これらの活動は、世界中のロータリアンお一人お一人のご支援があってこそ実現しているものであります。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

一方で、現在のロータリーには大きな課題もあります。それは、世界的な会員減少です。2016年には約120万人いた会員数が、2025年には約112万人まで減少しております。特に、アメリカ、イギリス、オーストラリアなど、これまでロータリーを支えてきた国々で減少傾向が続いています。

一方、インドやアジア地域、アフリカの一部では会員増加が続いております。例えばインドでは継続的な増加を達成しており、サブサハラ・アフリカ地域でも会員数を順調に伸ばしています。つまり、ロータリーは決して世界全体で衰退しているわけではなく、地域によって状況が大きく異なっているのです。

日本においても、コロナ禍以降、会員減少傾向が続いております。現在の会員数は約8万1,000人ですが、私はぜひ再び10万人を超える組織へ成長してほしいと願っています。特に、日本が再び3ゾーン体制を維持していくためには、10万5,000人規模まで回復することが重要だと考えています。

しかし、会員増強についてお話をすると、「候補者がいない」「若い人が興味を示さない」

「ロータリーは敷居が高いと思われている」といった声をよく耳にします。もちろん、現実としてそのような側面はあるかもしれません。しかし、私は、できない理由を探していても前には進めないと思っています。できない理由はいくらでも出てきます。大切なのは、「どうすればできるか」を考えることです。

そのために最も重要なのは、「ロータリーを楽しむこと」だと私は考えています。講演の中でも、皆さまに「ロータリーを楽しんでいますか」「ロータリーは好きですか」とお尋ねしました。多くの方が手を挙げてくださいました。私は、そのことに大変希望を感じました。

ロータリーを楽しみ、好きになることが、ロータリー活動の原点だと思っています。会員同士が信頼し合い、例会を楽しみ、奉仕活動を通じて地域や世界に良い変化をもたらす。そして、クラブの中に居場所があり、有意義な友情やつながりを感じられることが、クラブ活性化には欠かせません。

最近、ある大学基盤のローターアクトクラブの女性リーダーが、「私たちはオシャレで楽しいロータリー活動をしています」と話してくれました。私は非常に印象に残りました。「オシャレ」という発想は、私たち世代にはなかなかありません。しかし、若い世代には、その感覚が大切なのだと思います。

もちろん、ロータリーには長い歴史と伝統があります。しかし、歴史と伝統だけにこだわり続けてしまうと、活動がマンネリ化してしまうこともあります。新しい感覚や価値観を取り入れ、新しい歴史と伝統を作っていくことも必要ではないでしょうか。

また、近年のロータリーでは、クラブ運営の柔軟化も進んでいます。衛星クラブ、パスポートクラブ、法人クラブ、活動分野に基づくクラブなど、多様な形態のクラブが誕生しています。奉仕活動を

中心に行うクラブや、大学や企業を基盤にしたクラブなど、それぞれの地域や時代に合った形が認められるようになっていきます。

さらに、「3-Year Rolling Goals」という考え方も大変重要です。単年度だけで終わるのではなく、会長・会長エレクト・会長ノミニーが連携し、3年間を見据えてクラブ運営を行うことで、継続的な成長が可能になります。単年度主義だけではなく、未来につながる視点を持つことが必要です。

最後に、皆さまにお願いがあります。どうか、もっとロータリーを楽しんでください。そして、その素晴らしさを友人や若い世代に伝えてください。ロータリーには、人を成長させ、人生を豊かにする「機会の扉」が数多く用意されています。その扉を、自ら開いていただきたいのです。

皆さま一人ひとりの行動が、クラブを育て、地域を変え、そしてロータリーの未来をつくっていきます。奉仕と親睦を通じて、これからも共にロータリーを発展させてまいりましょう。ありがとうございました。



記念講演「ポリオとロータリーについて」



公益財団法人
結核予防会理事長
尾身 茂 氏

皆さま、こんにちは。

本日は、このような歴史と伝統ある国際ロータリー第2680地区 地区大会にお招きいただき、誠にありがとうございます。私はこれまで、医師として感染症対策に長く携わり、WHO西太平洋地域事務局長なども務めてまいりました。本日は、感染症の歴史、新型コロナウイルス感染症から見えてきた課題、そしてこれからの社会のあり方について、私なりの考えをお話しさせていただきました。

私は長年、感染症の現場に関わってきましたが、強く感じているのは、「感染症は決して過去の問題ではない」ということです。かつて人類は、ワクチンや抗菌薬の進歩によって、感染症をある程度

克服したかのように考えていた時代がありました。しかし現実には、SARS、新型インフルエンザ、MERS、そして新型コロナウイルス感染症など、新たな感染症が次々に出現しています。

特に今回の新型コロナウイルス感染症は、「100年に一度のパンデミック」と言われました。この言葉について、「本当にそこまで大きなものだったのか」と疑問を持たれる方もおられるかもしれませんが、私は決して大げさな表現ではないと思っています。

1918年頃に世界的に流行したスペイン風邪では、約5,000万人が亡くなったと言われています。その後も、1957年のアジア風邪、1968年の香港風邪、2003年のSARS、2012年のMERSなど、さまざまな感染症が発生しました。しかし、それらと比較しても、新型コロナウイルス感染症による社会的・経済的影響は極めて大きなものでした。世界中で医療崩壊の危機が起こり、人の移動が止まり、社会活動そのものが大きく制限されました。そうした歴史的背景を踏まえ、私たち専門家は「100年に一度」と表現していたのです。

また、今回のコロナ禍を通じて、多くの方が「なぜ新しい感染症が次々と出てくるのか」と感じられたと思います。私は、その背景には、人間社会そのものの変化があると考えています。

現在、地球温暖化や森林開発、環境破壊などによって、人間と野生動物との距離が急速に近づ





いています。これまで人間社会と接点の少なかったウイルスや細菌が、人間へ感染する機会が増えているのです。

さらに、世界的に家畜の大量飼育も進んでいます。狭い空間に多数の動物を飼育する環境では、動物にも強いストレスがかかります。動物も人間と同じで、ストレスを受けると免疫力が低下します。すると、本来は体内で抑え込まれていたウイルスや細菌が活動を始め、人間へ感染する可能性が高まるのです。

これは人間にも共通しています。実は私自身、若い頃に結核菌へ感染しています。しかし発病はしていません。感染したからといって、必ず病気になるわけではないのです。人間の体には免疫力があり、通常は病原体を抑え込んでいます。しかし、高齢化や大きなストレス、持病などによって免疫力が低下すると、抑え込まれていた病原体が活動を始め、発病につながる場合があります。

つまり、感染症というものは、単にウイルスや細菌だけの問題ではありません。人間社会のあり方や生活環境、自然環境とも深く結び付いているのです。私は、今後も新たなパンデミックが、これまで以上の頻度で発生する可能性があると考えています。

そのような時代において重要なのが、「早期発見」と「正確な情報収集」です。私は長年、ポリオ根絶活動にも関わってきましたが、その中で非常に重要だったのが、「AFPサーベイランス」という仕組みでした。

ポリオは、突然、急性弛緩性麻痺を起こします。しかし、その症状はギラン・バレー症候群など他の病気とも非常によく似ています。特に発展途上国では医師不足もあり、見た目だけでポリオかどうかを判断することは困難でした。

そこで私たちは、「ポリオかどうか分からなくても、とにかく急性の麻痺が出た患者は全て報告する」という仕組みを導入しました。そして、患者の便を採取し、検査機関でウイルスの有無を確認する体制を整えたのです。

これは簡単そうに聞こえるかもしれませんが。しかし実際には、地方の小さな診療所まで含めて、この仕組みを浸透させるには大変な時間と労力が必要でした。発展途上国では交通インフラも十分ではなく、検体輸送だけでも困難な地域が数多くありました。それでも私たちは、現地スタッフや各国政府、WHO、そしてロータリーの皆さまと協力しながら、この仕組みを整備していきました。そして、この地道な積み重ねが、現在のポリオ根

絶へ大きくつながっているのです。

私は、ロータリーの皆さまによるポリオ根絶活動に対して、心から敬意を表したいと思っています。ロータリーは長年にわたり、多額の資金支援だけでなく、現場での啓発活動や継続的な支援を続けてこられました。感染症対策というものは、一時的な熱意だけでは成功しません。10年、20年という長い時間をかけて継続する覚悟が必要です。その意味で、ロータリーの果たしてきた役割は世界的にも極めて大きいと感じています。

また、新型コロナウイルス感染症を通じて、日本社会の課題も数多く見えてきました。その一つが、デジタル化の遅れです。

例えば、感染状況の把握や医療機関との情報共有、ワクチン接種記録の管理など、多くの場面でデジタル化の遅れが課題となりました。もし行政や医療体制のデジタル化がもっと進んでいれば、感染状況をより正確かつ迅速に把握できた可能性があります。また、緊急事態宣言の回数を減らせた可能性や、結果として死亡者数をさらに抑えられた可能性もあったのではないかと私は考えています。

さらに、今回のコロナ禍では、「情報との向き合い方」の難しさも浮き彫りになりました。SNSなどを通じて、正しい情報だけでなく、不正確な情報

や極端な意見も急速に広がりました。ワクチンについても、さまざまな意見が飛び交いました。

私は、科学的な議論において最も重要なのは、「感情ではなくデータを見ること」だと思っています。

今回のコロナワクチンは、感染そのものを完全に防ぐものではありませんでした。接種後に感染するケースもありました。しかし一方で、「重症化や死亡を防ぐ効果」があることは、多くの研究によって明確に示されています。

私は、個人的な感想ではなく、世界中で発表された査読付き論文や信頼性の高い研究データに基づいてお話をしています。異なる国、異なる研究者、異なる研究方法によって行われた研究が、共通して「重症化予防効果は明確に存在する」と示しているのです。

もちろん、科学には絶対はありません。しかし、その時点で得られている最善の科学的根拠に基づいて判断することが、感染症対策では極めて重要です。感情だけで判断するのではなく、冷静にデータを見ながら行動する姿勢が、これからますます求められる時代になると思います。

これからの社会では、「感染症との共存」が避けられません。しかし、正しい知識を持ち、社会全体で協力し合うことで、被害を最小限に抑えることは可能です。そして、そのためには、医療関係者だけではなく、地域社会、行政、民間団体、そして一人ひとりの理解と行動が必要です。

本日の地区大会のテーマでもある「つながり」や「奉仕」の精神は、まさにこれからの社会に必要な力だと私は感じています。地域の中で人と人をつなぎ、支え合う活動は、感染症の時代においても大変重要な役割を果たします。

ロータリーの皆さまが、長年にわたり地域社会や国際社会のために活動されていることに、改めて深く敬意を表したいと思います。本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。



〔地区現況報告〕



2025-26年度
ガバナー

城 守 (姫路)

本日は、当地区の現況についてご報告申し上げますとともに、私たちがこれからどこへ向かい、何を大切にしながら進んでいくのか、その思いも含めてお話をさせていただきたいと思います。

本年度、国際ロータリー会長フランチェスコ・アレツォ氏のメッセージは、「UNITE FOR GOOD－よいことのために手を取りあおう」であります。私はこの国際ロータリー会長メッセージを受け、本年度の地区行動指針として、

TAKE ACTION TOGETHER!

MAKE INNOVATION!

「手に手つないで 革新的な行動をしよう!」
を掲げてまいりました。

当地区では2022-23年度地区大会において、新たな地区ビジョンと3か年戦略計画が採択されました。「私たちは、ロータリーの中核的価値観・奉仕の実践を尊重し、自らの人間力を高めるとともに、活気あふれ、魅力あるクラブの実現を目指し、地域社会や世界に持続可能な良い変化を生むために行動します」という地区ビジョンを共有しながら歩んでおり、今年度は、その3か年戦略の仕上げの年であります。

それでは、地区の現況についてご報告申し上げます。

2026年1月末現在、当地区の会員数は2,448名となっています。年度開始時と比べ、着実に増加しています。女性会員数も159名から171名へ増加しており、多様性の広がりを感じています。

2026年1月末時点での状況 (2025年6月末時点との比較)	
会員数	2,408人⇒2,448人
(うち女性会員数)	159人⇒171人
クラブ数	68クラブ⇒66クラブ
(1衛星クラブ)	(1衛星クラブ)
ローターアクトクラブ数	9クラブ⇒8クラブ
インターアクトクラブ数	26クラブ⇒26クラブ
R財団寄付 年次基金	270,036\$⇒191,870\$
寄付額	84,991\$⇒69,154\$
米山記念奨学金	39,338,042円⇒26,928,110円
My ROTARY登録率	75%以上⇒71%

一方でクラブ数は68クラブから66クラブへ減少いたしました。また、ローターアクトクラブ数も減少傾向にあります。多くのクラブが、「会員維持・増強は最重要課題である」と理解されています。会員が増えることによって、奉仕の力が増し、地域社会への影響力も大きくなります。

だからこそ私は、

- ①会員増強をあきらめないこと
- ②他クラブの取り組みを学ぶこと
- ③まず行動に移すこと

をお願いしてまいりました。では、どのように会員増強とクラブの活性化を進めていくのか。

本年度、国際ロータリーは会員増強と活性化に向けたロードマップとして、①「革新」②「継続性」③「パートナーシップ」という三つの柱を示しています。私は、この考え方こそ今後の当地区にとって極めて重要であると考えています。

まず、「革新」です。世界は劇的なスピードで変化しています。社会構造も、人々の価値観も、働き方も変わっています。その中で、ロータリーだ

けが変わらずにいることはできません。ロータリーの伝統は守りながらも、新しい時代に対応する柔軟性が必要です。例えば、衛星クラブ、分野特化型クラブなど、多様なクラブのあり方も検討していかなければなりません。小規模クラブでありながら工夫によって会員増強に成功している事例も出てきています。クラブの未来は、変化への挑戦にかかっています。

次に「継続性」です。国際ロータリーは、3-Year Rolling Goals（3年間目標）を重視しています。クラブの発展とは、一年限りの成果ではなく、継続した積み重ねによって実現するものからです。

そして三つ目が「パートナーシップ」です。ロータリーは、世界ポリオ根絶活動を通じてその力を実証してきました。他の団体と力を合わせることで、ポリオ発症数を99.9%減少させるという歴史的成果を生み出しました。この成功体験を会員増強や地域活動にも活かすべきです。地域の企業、教育機関、行政、各種団体との連携。そうしたつながりの中から、新たな奉仕も新たな会員も生まれてくるはずです。

さらに本年度から、クラブ会長との対話をより深めるために、新たな取り組みとしてクラブサポートミーティングを始めました。これは定期的にクラブ目標の進捗を確認し、課題を共有し、地区として支援していく仕組みです。

次に、ロータリー財団と米山記念奨学事業について申し上げます。本年度も、地区内の多くの皆さまにご理解とご支援をいただいております。特にポリオ根絶は、あと一步のところまで来ています。ここで歩みを止めるわけにはいきません。「END POLIO NOW」は単なるスローガンではなく、未来の子どもたちを守るための私たちロータリアンの約束であります。

また、米山記念奨学事業については2025学年度26名から、2026学年度は32名へと6名増となりました。これはホストクラブが6クラブ増え

るということであり、地区全体の国際理解と奉仕の輪が広がることを意味しています。米山奨学生との交流は、ロータリアン自身の学びにもつながります。国籍や文化を超えて友情を育み、互いを理解する。その積み重ねこそが平和への第一歩であります。そして、未来のロータリーを考えるうえで欠かせないのが青少年との連携です。当地区には26のインターアクトクラブがあり、RYLA、青少年交換など多くの青少年プログラムとローターアクトがあります。若い世代が地域社会と関わり、奉仕を学び、人とのつながりを体験する。これは、未来のロータリアンを育てるだけではありません。未来の地域リーダーを育てることであります。近年、ローターアクトはロータリアンと同格のパートナーとなりました。共に学び、共に行動する関係です。若い世代の柔軟な発想と情熱こそ、ロータリーの未来をさらに魅力的なものにすると信じています。

最後に、皆さまにお願いを申し上げます。ロータリーは、誰かが何かをしてくれる場所ではありません。自らが関わり、行動し、仲間とともに社会をより良くしていく場所です。そしてその原点はクラブにあります。クラブ会長を中心に、それぞれのクラブが地域に必要とされる存在として、さらに魅力を高めていただきたいと思います。どうか、友情を深め、奉仕の喜びを分かち合い、そして未来に向けた希望を育んでください。

結びに、本日まで参集いただきましたすべての皆さまに心より感謝を申し上げ、地区現況報告とさせていただきます。



〔大会特別委員会報告〕

■大会登録委員会報告



大会登録委員長
鎌谷 正弘 (姫路)

大会登録委員会よりご報告申し上げます。

本地区大会の登録者総数は、3月5日現在で、1,650名でございます。その内訳は、ご来賓26名、地区外ロータリアンならびにそのご家族28名、地区内ロータリアンならびにそのご家族1,487名、プロバスクラブ会員4名、ローターアクター15名でございます。その他にも関係の皆さま方といたしまして、インターアクトクラブ、各学友会などのロータリーファミリーから多数の登録、参加をいただいております。

あらためまして、皆さま方の厚い友情に感謝し、大会登録委員会からのご報告とさせていただきます。

■大会信任状委員会報告



大会信任状委員長
矢坂 誠徳 (神戸西)

大会信任状委員会よりご報告申し上げます。

地区内66ロータリークラブから信任状が提出され、過日精査いたしました。

それに基づき、昨日13時より委員会を開催し、66ロータリークラブ99人の皆様がいずれも、国際ロータリー細則第15条050.2項に対し、適正に選任されていることを確認いたしました。

ここにご報告いたします。

■大会決議案採択



ガバナー
城 守 (姫路)

ただいま上程されました、決議案に対してご賛同の方は、拍手をお願いいたします。

〈 拍 手 〉

決議案は皆様のご賛同により採決されました。
ご協力ありがとうございました。

■大会決議案上程



大会決議委員長
阪上 栄樹 (宝塚)

大会決議委員会から、本大会の大会決議案を上程させていただきます。

決議案は、当日配付冊子の22・23ページに記載されております通り、第1号から9号まででございます。

以上、上程させていただきます。

■ガバナー指名委員会報告



ガバナー指名委員長
高瀬 英夫 (西脇)

ガバナー指名委員会よりご報告申し上げます。

ガバナー指名委員会は、国際ロータリー細則第12条030.3の規定に基づきまして、国際ロータリー第2680地区の2028-29年度ガバナー候補者として、姫路南ロータリークラブの中村滋彦(なかむらしげひこ)会員を、指名いたしました。

その結果をガバナーに報告いたしました。

2025-26年度 国際ロータリー第2680地区 地区大会決議

決議第1号

2025-26年度 国際ロータリー会長メッセージ推進に協力する件

国際ロータリー会長フランチェスコ・アレツツォ氏は、本年度の国際ロータリー会長メッセージとして、「よいことのために手を取りあおう」“UNITE FOR GOOD”を掲げ行動されている。我々は本大会を機に決意を新たにし、国際ロータリー会長メッセージ推進のため、さらに協力することをここに決議する。

決議第2号

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツォ氏に対し、佐藤芳郎 国際ロータリー会長代理の派遣に感謝する件

本大会の開催にあたり、国際ロータリー会長フランチェスコ・アレツツォ氏は、佐藤芳郎氏を国際ロータリー会長代理として派遣された。我々は、フランチェスコ・アレツツォ会長のご厚意とご配慮に対し、深甚なる感謝の意を表することをここに決議する。

決議第3号

国際ロータリー会長代理 佐藤芳郎氏への感謝の件

国際ロータリー会長代理 佐藤芳郎氏は、本大会に相応しい主賓として、国際ロータリー会長フランチェスコ・アレツツォ氏のメッセージを伝達されるとともに、有意義かつ感動的なスピーチにより本大会をきわめて意義あるものにされた。我々は国際ロータリー会長代理に対し、深甚なる感謝の意を表することをここに決議する。

決議第4号

国際ロータリー第2680地区直前ガバナー 矢坂誠徳氏への感謝の件

直前ガバナー矢坂誠徳氏は、2024-25年度ガバナー在任中、直前国際ロータリー会長ステファニー A. アーチック氏の国際ロータリー会長テーマ「ロータリーのマジック」“THE MAGIC OF ROTARY”推進のため、熱心かつ誠実に地区の運営に尽力し、ロータリーの発展のために多大な貢献をされた。

我々は、直前ガバナーに対し、深甚なる感謝の意を表することをここに決議する。

決議第5号

ポリオ根絶活動に関する件

ポリオの根絶は、長年にわたってロータリアンが大きな力を注いでいる活動である。パートナー団体とともに、世界中の子どもたちにポリオ予防接種を実施し、全世界のポリオの症例は99.9%減少しているが、いまだ根絶には至っていない。我々は、目標を実現するまで根絶活動を継続することをここに決議する。

決議第6号

2026年台北国際大会に関する件

2026年6月13日(土)から17日(水)に開催される2026年台北国際大会が有意義かつ成功裏に終わるよう、我々は、積極的に参加し協力することをここに決議する。

決議第7号

兵庫県および姫路市、ならびに関係諸団体への感謝の件

本大会開催に当たって、兵庫県および姫路市、ならびに関係諸団体から賜ったロータリーに対するご理解とご協力に対し、我々は、深甚なる感謝の意を表することをここに決議する。

決議第8号

ホストクラブに対する感謝の件

本大会が、地区内外より多数の参加者を得て盛大に開催されたことは、ひとえにホストクラブである姫路ロータリークラブ会員の、長期にわたる周到な準備と献身的なご努力の賜物である。よって本大会は、これらの会員に対し、深甚なる感謝の意を表することをここに決議する。

決議第9号

次年度地区大会開催に関する件

2026-27年度国際ロータリー第2680地区 地区大会を、姫路東ロータリークラブをホストクラブとして、2027年3月6日(土)・7日(日)の両日において、姫路市で開催することをここに決議する。

〔ガバナーエレクト挨拶〕



2025-26 年度
ガバナーエレクト

白井 務子 (姫路東)

国際ロータリー第2680地区 2025-26年度地区大会の開催を心よりお慶び申し上げます。ガバナーエレクトとして、この瞬間、このひと時を皆様方と分かち合える事は、私にとって大きな誇りであり、喜びでも有ります。また、次年度への力強い1歩になることと信じております。

ロータリーは「奉仕の心」を胸におき、世界に希望を生み出す為に歩み続けています。今年度は城守ガバナーの方針「手に手つないで 革新的な行動をしよう!」をもとに、先輩方の情熱……そして各クラブ会員一人ひとりの真心と行動によって築かれていると確信しております。

私はロータリーに深く惹かれた出来事が有ります。それは青少年奉仕活動・青少年交換委員会での事でした。些細な言語しか出来ない! 人見知りをする! おとなしい学生達が、1年間、見も知らない世界へと旅立ち、つらい思いや、言語、人間関係に悩まされ、涙し、時には楽しい事も有り、友達作りをしながら生活をして、180度心も体も大きく成長して帰国いたします。その姿を見た時、胸が熱くなり「この活動は相手だけではなく、自分の心も豊かにしてくれる」という事を深く実感しました。

私たちの活動・行動は1歩1歩小さくても、その積み重ねがやがて大きな変化を生み、未来を輝かせることが出来るものと信じています。地区

の皆様が「貴方に会えて・出会って……共に活動が出来てよかった」と思っていたける為活動! ロータリーライフを皆様と一緒に……。笑顔の絶えない奉仕の輪を広げていきたいと願っております。

最後に、本大会開催にあたり竹田佑一地区大会実行委員長をはじめとする姫路ロータリークラブ、関係各位の皆様のご尽力に敬意と感謝を申し上げ私のご挨拶とさせていただきます。



〔ガバナーノミニ一挨拶〕



2025-26 年度
ガバナーノミニ一

田中 正喜 (尼崎東)

2024-25年度ガバナー指名委員会において、2027-28年度ガバナーにご指名いただきました、尼崎東ロータリークラブの田中正喜です。

『TAKE ACTION TOGETHER! MAKE INNOVATION! — 手に手つないで 革新的な行動をしよう!』を行動指針に掲げられた城守ガバナーの地区大会が、佐藤芳郎国際ロータリー会長代理をお迎えし、このように盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。併せまして、本大会の開催にあたり尽力された関係各位のご努力に対し、深く敬意を表します。

昨年2025年は「昭和100年」という節目の年でした。この100年は人類は著しい技術革新を遂げましたが、同時に国際情勢の激変、国内政治の変化、気候変動や環境問題、平和への脅威など「待ったなし」の課題に直面しております。

私は、阪神淡路大震災の傷跡が残る1996年10月に入会以来、社会奉仕・青少年奉仕を中心に取り組んでまいりました。特に12年前のクラブ会長の折、地元の小学校の「浄瑠璃クラブ」へ行った衣装新調支援は、地区補助金を活用し1年半にわたる準備を経て実現した印象深い事業です。地域と連携した取り組みは、私にとってもクラブにとっても大きな原体験となりました。

地区補助金やグローバル補助金は、『クラブの活性化』『人材育成』『会員拡大』に資する重要な手段です。是非積極的に活用いただきたいと思います。また青少年奉仕についても理解を深め、参加クラブと参加者の基盤を広めていき、持続可能な事業に育てて行くことが今後の

課題と思っています。

これらの取り組みこそが、城ガバナーの掲げる「革新的な行動」であり、また国際ロータリー会長の「UNITE FOR GOOD — 良いことのために手をとりあおう」という目標に向かう確かな一歩になると確信しております。

時代と共に形は変われど、「奉仕の理念」と「友情」という心理は不変です。元より浅学菲才の身ではございますが、変化を恐れず、かつ基本を重んじ、一歩ずつ研鑽を積んでまいり所存です。皆様の温かいご指導、ご支援、ご協力を心よりお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。



〔ガバナーノミニー・デジグネート挨拶〕



2025-26 年度
ガバナーノミニー・デジグネート
中村 滋彦（姫路南）

高瀬英夫ガバナー指名委員会委員長より、ガバナーノミニー・デジグネートのご指名を賜り、2028-29年度の当地区ガバナーを務めることとなりました姫路南ロータリークラブの中村滋彦でございます。

まずもって、城守ガバナーが主催された今年度の地区大会が、佐藤芳郎国際ロータリー会長代理をお迎えし、盛大に開催されましたことを心よりお慶び申し上げます。「手に手つないで 革新的な行動をしよう!」という城ガバナーのスローガンに応え、地区内各クラブから大勢の会員が集い、「よいことのために手を取り合う」絶好の機会となりました。城ガバナーの熱い思いを改めて感じると共に私も気持ちの高揚を抑えきれませんでした。

私は、2004年に姫路南ロータリークラブに入会しました。姫路南ロータリークラブは、1958年の創立で次々年度にはクラブ創立70周年を迎えます。83名の会員を擁する西播第一グループのクラブの一つです。

姫路南ロータリークラブは1983-84年度に故・森滋郎会員をガバナーとして輩出しており、以来私は45年振り2人目のガバナーを務めます。私の入会当時、森パストガバナーはまだご健在で例会にも出席されていましたが、私がその後を追うことなど当時は想像もしませんでした。

現在私は地区のVTT小委員長を務めています。ロータリー財団資金を活用して職業研

修チームを支援する活動に携わっていますが、プロジェクトごとにインパクトのある感動的な体験をチームメンバーの皆さんとシェアさせていただいています。ロータリーには感動的な体験の大きなポテンシャルがあります。2年余りしっかりと研鑽を積み、もっと自信と勇気を持って皆様にも「ロータリーを通じて感動的な体験をしましょうよ」と力強く呼び掛けられるよう努める所存です。地区内各クラブの皆様におかれては何卒お力添えを賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



〔参加クラブ代表挨拶〕



2025-26 年度
尼崎東ロータリークラブ会長
近 知史 (尼崎東)

先ずは昨日、本日と地区指導者育成セミナーでご講話をいただきました岡山南ロータリークラブの佐藤芳郎国際ロータリー会長代理ご夫妻に心より感謝を申し上げます。岡山の南地区には倉敷美観地区と言う大変美しい場所がありますが、その倉敷にあります料理旅館鶴形さんで美味しい鯖料理を頂きました事、良く覚えております。又、機会を作りお伺いをさせていただきたいと思っています。

そして昨日、ご講話を賜りました元国際ロータリー理事の三木明様、本日、記念講演「ポリオとロータリーについて」を賜りました尾身茂様、更に今年度の地区大会に多くの彩を与えてくださいました各地域よりお越しの皆様、参加クラブの皆様にご感謝申し上げます。

本年度国際ロータリーのテーマはUNITE FOR GOODですが、城ガバナーは当初よりTAKE ACTION TOGETHER! MAKE INNOVATION! を提唱し、立場や違いを超え共に行動する事の尊さと力強さを訴えられた真っ直ぐな思いが、本日の記念講演まで一本の線で結ばれております。この度の各種プログラムを通し、このサポートをしっかり受け止め、クラブとしてより具体的に実践をして参りたいと思います。

最後に、地区大会を主体となって開催していただきました姫路ロータリークラブの皆様、ご関係者の皆様にご謝意を表し、参加クラブ代表挨拶とさせていただきます。

〔次年度ホストクラブ会長挨拶〕



2025-26 年度
姫路東ロータリークラブ会長
河本 一郎 (姫路東)

本日はこのように盛大な地区大会が開催されたことを心よりお慶び申し上げます。城守ガバナーをはじめ姫路ロータリークラブの皆様、そして運営にご尽力いただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。皆様の熱意は私達に大きな刺激と勇気を与えてくださいました。今日のこの経験と感動を心に刻み次年度は、笑いあり、感動あり、満足あり、来てよかった、と笑顔でお帰りいただけるようなプログラムを準備中です。テーマは「SHAPE OUR FUTURE TOGETHER」共に未来を創造することを目指す!としています。

私自身、入会してから17年が経過しました。当初から白井務子エレクトは青少年育成に対し熱く強い思いを持たれており、派遣生たちに向け「留学先で困った事が出来た時、貴方が悩んだ時、孤独でたまらなくなった時は、いつでも、何時でも良いので電話しなさい! 私はあなた達の為に24時間いつでも電話に出られる体制にいるから、安心して頑張ってください」と声をかけてられています。まさに青少年と共に未来を創っていく白井エレクトの行動指針そのものではないかと感じます。我々も次年度に向け2680地区の皆様と共に未来を創っていけるような地区大会を目指してまいります。

最後になりますが次年度地区大会は、2027年3月6日、7日に姫路市で開催予定です。地区大会を盛り上げるためにも皆様のご協力を賜りお会いできる事を楽しみにして次年度ホストクラブ代表としての挨拶に代えさせていただきます。

〔所 感〕



国際ロータリー会長代理
佐藤 芳郎 (2690地区 岡山南)

地区大会も終盤を迎え、所感を述べる時間となりました。まず皆さまにご報告したいことがあります。先ほどご講演された尾身茂先生より、「ぜひ会長代理と話をしたい」とお声がけをいただきました。私は、ポリオの話で何か間違いがあったのではないかと緊張して控室へ伺いましたが、そこで先生からいただいたのは、若い世代との関わりについての貴重な助言でした。

尾身先生は、「団塊世代は今のZ世代の感覚を十分理解できていないかもしれない。だからこそ、若い世代と交流しながら新しいプロジェクトや会合を作ることが大切だ」と話されました。私自身、講演の中で若い世代の力の重要性について触れておりましたので、大変印象深いお言葉でした。

また尾身先生は、「これまで参加した地区大会の中で一番良かった」と大変高く評価されておりました。プログラム内容だけでなく、晩餐会のお料理やジャズ演奏、本日の花笠かぶき人間塾のアトラクションも含めて、「すべてが素晴らしかった」と笑顔で話されていたことをご紹介いたします。私自身もまったく同じ思いであります。

本年度も残り4カ月となりました。ぜひ各クラブ、そして会員お一人おひとりが、自ら「機会の扉」を開き、ロータリー活動に邁進していただきたいと思います。そしてクラブを活性化し、「ロータリーを育てる」という思いで、さらに前進していただければ幸いです。ありがとうございました。

〔謝 辞〕



2025-26 年度
ガバナー
城 守 (姫路)

皆さま、本日は長時間にわたり国際ロータリー第2680地区 地区大会にご参加いただき、誠にありがとうございました。閉会にあたり、地区を代表して心より御礼申し上げます。

まず、本日ご臨席を賜っています、地区内外からお越しくださいましたご来賓の皆さまに心より感謝申し上げます。皆さまからの温かいご指導とご理解が、地域社会の中における私たちのロータリー活動を支えてくださっております。そして、国際ロータリー会長代理 佐藤芳郎様には、本大会にご臨席いただき心温まるご指導と励ましのお言葉を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

さらに、本大会の開催にあたり、ご尽力いただきました大会実行委員会の皆さま、ホストクラブの皆さま、そして大会運営に関わってくださったすべての関係者の皆さまに、深く感謝申し上げます。

本年度、国際ロータリーのメッセージは、「UNITE FOR GOOD よいことのために手を取りあおう」であります。私たち2680地区のロータリアンも、仲間と手を取り合いながら、地域社会、そして世界のために奉仕の輪を広げていきたいと思っております。本日の地区大会で得た学びや友情をそれぞれのクラブに持ち帰り、これからの活動に生かしていただければ幸いです。

結びに、皆さまのますますのご健勝と各クラブのさらなる発展を祈念申し上げ、地区大会閉会にあたっての謝辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

対象期間：2024年7月1日～2025年6月30日

RI表彰

ロータリークラブ優秀賞（旧ロータリー賞）

尼崎西	尼崎南	尼崎中	芦屋	甲子園
西宮夙川	篠山	HYOGO REC	神戸	神戸東灘
加古川中央	加古川平成	南淡路	姫路	姫路南

クラブ優秀賞（インターアクトクラブ）

甲南高等学校・中学校インターアクトクラブ

ロータリー財団表彰（クラブ）

ロータリー財団年次基金 一人当たり寄付額 上位3クラブ

1位	神戸東灘	2位	姫路	3位	姫路南
----	------	----	----	----	-----

ロータリー財団年次基金 寄付額 上位3クラブ ※地区表彰

1位	姫路	2位	姫路南	3位	神戸
----	----	----	-----	----	----

100%ポール・ハリス・フェロークラブ

加古川平成 神崎

100%ロータリー財団寄付クラブ

（正会員全員が寄付分類に関わらず少なくとも25ドルの寄付をして、
一人当たりの平均寄付額が100ドルに達しているクラブ）

川西猪名川	西宮	芦屋	甲子園	西宮夙川
芦屋川	西宮恵美寿	宝塚	三田	柏原
宝塚武庫川	三田南	神戸東	神戸六甲	神戸西
神戸中	加古川	加古川中央	加古川平成	小野加東
西脇	赤穂	龍野	生野	香住
豊岡円山川				

Every Rotarian, Every Year クラブ

（正会員全員が年次基金へ少なくとも25ドルの寄付をして、
一人当たりの年次基金平均寄付額が100ドルに達しているクラブ）

西宮	芦屋	甲子園	西宮夙川	宝塚
三田	柏原	三田南	神戸六甲	神戸西
神戸中	加古川中央	加古川平成	小野加東	西脇
赤穂	龍野	香住	豊岡円山川	

（2025年8月31日現在）

ロータリー財団への寄付

アーチ・クランフ・ソサエティ

神戸西神 丸尾 研一 丸尾 正子 (Foundation Circle)

メジャードナー

(レベル2)

西宮夙川 山本 正二
神戸 井植 貞雄
神戸須磨 橋本 一豊
姫路 橋本 トシミ
城 守

(レベル1)

川西 北川 博崇
神戸東灘 舟元美智子
神戸垂水 善國 高豊
姫路東 白井 務子

ポール・ハリス・ソサエティ

尼崎東 小坂 圭一
川西猪名川 林 健一
篠山 小南 稔彦
神戸 井植 貞雄
神戸西 矢坂 誠徳
神戸須磨 橋本 一豊
神戸西神 丸尾 研一
加古川中央 喜多 美雄

洲本 秦 紳一郎
姫路 城 守 三木 明
姫路南 瀧川 祥也
赤鹿 保生 赤穂 哲
有川 裕之 小林 義昭
中村 滋彦 小原 直人
高島 暢 梅本 伸昌
横田 勝好

ベネファクター

川西 北川 博崇
川西猪名川 下岡 節三
芦屋 酒本 藤雄

明石東 小川 英紀
姫路東 橋本 雅彦

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

尼崎	福本 豊	柄谷順一郎	西宮	遠藤 剛	覺心平十郎
	河村 隆	川田 洋一		松井 義知	大迫 康二
	高岡 久	吉川 壽一		山本 修士	
尼崎北	増富 忠義		芦屋	酒本 藤雄	里深 久起
尼崎東	木村 長和	太田 叶子		山西 康司	
	田中 正喜		甲子園	井上 薫嘉	石丸 秀樹
尼崎西	中島貴美子	杉本 一彦		松本 源也	森 裕司
	田川公一朗			多田 昭宏	和手 甚京
尼崎南	山本 澄	與那嶺まり子	芦屋川	松本由美子	
伊丹	山村 幸生		西宮恵美寿	貴田 賢次	
川西猪名川	林 健一		宝塚	古川 彰治	蓮尾 春輝

対象期間：2024年7月1日～2025年6月30日

[illegible]

ポール・ハリス・フェロー

尼		崎		濱本順一郎 水谷 旨智		伊口 隆弘		伊	丹	中山 行夫 荒木 健作		堀池 周司
尼	崎	西		山下慶康		山崎 鉄兵		西	宮	上田尾 真		
ニ	崎	南		芝 泰雄				甲子園		川崎 孝広		木下由美子
ニ	崎	中		二神敏行						東耕 功		吉住 正基

宝篠	塚山	神尾石田	友直大	治太郎	大山前岡	昌輝昌	小野加東	満木辻本	宏和哉	芝本	真和
HYOGO REC	戸東灘	大河内健	晶仁志	太郎	上島	達司	脇本路南	園田木村	純也一郎	田邊角	浩平
神戸	戸西	松井大屋	克佳				姫路	三木赤鹿	健義生	横田	勝利
神戸	モーニング	高原森	義統				姫路	梅本濱中	伸昌祐吉		好
神明	石北	重田宮本	和寿明		平田	義人	神	鎌谷三森	哲也一郎	清瀬仁野	裕巳
明		榎本石原	浩志男		岸本山下	泰浩隆弘裕		大塩坂本	和秀博	佐伯竹村	央一
		岡田池本	芳正久美		坂牛			寺河上山	俊紀一郎	塔尾吉識	稔章
高砂	青松	坂本阿江	雅直克彦		福田久後	歩淳司	豊生	加藤森田	宏志龍司	上嶋高田	順平
高三	加東	上月	規秀				岡野	大岡	豊	与田	真吾
小							豊岡				元稔

ポリオプラス・ソサエティ

尼崎	北東	武本平野	正高太郎	照太郎	中井安田	洋亨	加古川中央	春木井上	英孝明	長谷川輝幸
伊丹	西川	三田山村	恭男幸生	一夫健一				衣笠前川	昭平忠範	兼松喜多
川西	猪名川	芝田林	一夫健一	康司彰治	稲山建一郎		加古川平成	鈴木満木	知宏勝博	柳山本
芦屋	塚	山西古川	康司彰治	義博悦治			小野加東	秦紳一郎	宏明彦	宮岡
宝		栗田仲内	義博悦治	治子美裕	那須阪上山田	満栄樹隆之	あわじ中央路	徳梅赤鹿	明彦守聡	英鎌谷
		大平田	祐規子美裕	行年徳一			姫路南	城日下部	聡弘祥也	三木澤田
神戸	東灘	横山横田	勝年徳一	豊和久人	加門中右	竜彰龍弘		瀧川赤鹿	保生謙次郎	有川横田
神戸	須磨	矢坂橋本	誠一豊和	雅人智之	富永			藤塚中村	滋彦兼明	小原小林
神戸		益子奥田	和久雅人	智之正夫			生野	岡田森田	龍司保郎	夜久木島
神明	垂水	山崎澤村	智之正夫	和寿元雄			和田山	佐竹能見	八郎真生	
明	石	重田米澤	和寿元雄					小野山		

対象期間：2024年7月1日～2025年6月30日

西	宮	竹内	博	(4)					
芦	屋	三宅	康雄	(5)	酒本	藤雄	(2)		
宝	塚	阪上	栄樹	(7)(8)					
篠	山	堀口	純男	(9)	小山	芳弘	(6)	井本	季伸 (2)
宝塚武庫川		八木	康一	(3)					
神	戸	鍛治川	清司	(7)	後藤	武	(7)	笹田傳左衛門	(4)
		木下	勝文	(2)	森本	泰暢	(2)		
神 戸 東 灘		和田	孫博	(9)	川本	慶子	(8)	横山	道男 (2)
神 戸 ベ イ		西山	勝敏	(4)					
神 戸 須 磨		植田	芳光	(9)	光斎	信治	(7)		
神 戸 垂 水		善國	高豊	(9)	澤村	正夫	(5)		
神 戸 西 神		西藤	隆弘	(7)					
神 戸 中		岩崎	重曉	(5)					
高 砂		山名	克典	(5)	伊地知正治	(2)	坂井	智代 (2)	
加 古 川		岡田	義則	(6)	竹位	賢二	(6)	釜谷	和明 (5)
		水川	典明	(4)	橋本	真人	(4)	山本亜也夫	(3)
		中尾	知也	(2)	松尾	將勝	(2)	穴田	敬士 (2)
		安井	剛	(2)	田邊	誠	(2)		
加古川中央		釜谷	隆秋	(6)	宮本鹿司夫	(4)	濱田	宏晃 (2)	
		西村	雅文	(2)	井上	孝明	(2)		
三 木		畑中	伸介	(2)					
小 野 加 東		柳田	吉亮	(5)					
北 条		安達	功	(7)					
西 脇		金田	実	(6)	園田	純也	(5)	高瀬幸一郎	(3)
		高瀬	英夫	(2)					
三木みどり		依藤	保	(5)					
洲 本		秦 紳一郎	(8)(9)	番所	利行	(4)			
津 名		馬詰	政美	(4)	曾山	信彦	(4)		
姫 路		城	守	(4)(5)	穂積洋一郎	(3)	空地	顕一 (2)	
姫 路 南		梅本	伸昌	(6)	桑田	祥夫	(6)	小林	義昭 (5)
		塩見	佳朗	(4)	藤塚謙次郎	(2)	高谷	宗治 (2)	
姫 路 東		大西	健一	(7)	松尾健一郎	(2)			
神 崎		久斗	譲二	(3)	秋武	卓男	(2)		
赤 穂		木虎	知己	(2)	船曳	敬二	(2)		
相 生		半田	齊	(5)	江見	重人	(2)		
龍 野		井上	英士	(4)	永富	靖	(3)		
上 郡 佐 用		柳原	義宏	(3)	池田	雅子	(3)	宮本美智子	(2)
豊 岡		田中	晶	(5)(6)	川端	強	(2)		

対象期間：2024年7月1日～2025年6月30日

米山功労者（1回目）

尼崎北	花田勝則		明石東	福永博一	
尼崎東	越賀道秀		明石北	平田義人	石原隆志
尼崎西	藤縄修平	山下慶康		岸本泰浩	山下隆弘
	吉岡秀之		高砂	後藤宗久	谷川こずえ
尼崎南	川岸邦充		加古川	中原範人	
西宮	大迫康二	大島圭吾	小野加東	阿江克彦	福田歩
三田	柴田茂徳	矢野義之		上月規秀	久後淳司
篠山	石田直大	中井雅人		芝本真和	
宝塚武庫川	南園子		津名	長野正憲	奥野幸男
神戸戸東	永松潔和		姫路南	岩崎圭三郎	
神戸東灘	小林一也		姫路西	三宅敬	山水満
神戸西神	吉谷修作		神崎	清瀬裕巳	
	吉川孝一				

準米山功労者

尼崎北	西村近司			柳田昌三	
尼崎南	花田園子	平川昌哉	神戸東	松井照男	
	黒田俊一	西原忠彦	神戸東灘	東石佑季	大屋仁志
	大城浩		神戸モーニング	重田和寿	
川西猪名川	藪内安二		明石東	篠田欣一	
西宮	下岡節三	小路力子	明石北	櫻井庸介	
	松井良介	峯松永典	加古川	前田直	松崎正誠
	長部俊弘	梅若基徳		大野恭平	
芦屋	太田晴啓	里深久起	小野加東	廣内章平	長濱孝明
芦屋川南	松本由美子		津名	山本拓矢	
三田	東野幸一	大前衛	姫路東	河崎廣信	桑田香靖
	関口正人	下山隆一郎	龍野	井上英士	永富

米山功労法人

芦屋川 角張 楨也 株式会社オビワン

ロータリー在籍

対象期間：2025年1月1日～2025年12月31日

在籍 55年

神戸西 瀧川 博司 北 条 西村 道也 姫 路 小倉 伸郎

在籍 50年

姫 路 瀧川 泰久 姫 路 東 濱田 長伸 豊岡円山川 細川 満

100%連続出席会員

50年連続出席

神戸須磨 橋本 一豊
姫 路 東 濱田 長伸

豊岡円山川 細川 満

45年連続出席

姫 路 東 森原啓一郎

40年連続出席

洲 本 井口 昌亮 中村 尚義 姫 路 東 河野 通一
姫 路 英 和夫 姫 路 中央 藤森 久嘉
姫 路 西 野瀬 操 豊岡円山川 生駒 和雄

35年連続出席

芦 屋 川 片岡 三朗 寺内 設昭 西 協 藤原 悦男
高 砂 山名 克典 豊 岡 樫本 博光
北 条 原 平和 定行 敏弘

30年連続出席

篠 山 小山 芳弘 姫 路 南 土井 達也 壺阪 嘉彦
三 田 南 東野 幸一 姫 路 西 福原 良介
神 戸 東 中井 章詞 姫 路 東 久内麻佐行
明 石 東 柏木 喜義 神 崎 橋本新一郎 小林 正一
高 砂 信原 智彦 相 生 大川 幸矩
加 古 川 枝川 潤一 龍 野 谷口 幸三

25年連続出席

尼 崎 吉田 啓方 篠 山 大見 春樹
尼 崎 北 宮本 毅 神 戸 東 松岡 泰生 太田 雅勝
尼 崎 中 勝本 敏広 神 戸 東 吉田 茂 吉井 正幸
伊 丹 船本 洋 神 戸 須磨 益子 和久 米田 睦雄
西 宮 犬塚 雅晴 明 石 東 藪田 亘康

高砂 中野 哲郎
加古川中央 宇田川 隆
小野加東 北野 達郎
西脇 大西 義文
姫路 三宅 敬

姫路 東崎 幾野 勝好
神赤相 穂生 久斗 讓二
阿賀 阿賀 邦稔 慶彦

大出 裕崇

20年連続出席

尼崎 南 山本 澄勉
甲子 園 安本 康浩
三神 田 道遊 覚
神戸西 幸寺 涼二
高古川 丸山 恵右
加古川 橋本 眞人
小野加東 三村 浩之
北 安達 林正功

西上 俊彦
坂井 智代
田中 俊宏

西洲 脇本 高瀬 幸一郎
姫路 南 木戸 清隆
姫路 西 成田 哲朗
神赤生 崎穂野 蔦賀 明憲
伊賀 義高
島田 進一
壺阪 政和
木虎 知己
佐藤 恭

石谷 佳知
高谷 宗治
石田 文徳

※敬称略・クラブ順 2025年1月1日～12月31日



故 中井 洋 氏(尼崎東)
享年84



故 田中 毅 氏(尼崎西)
享年93



故 木下 成 氏(川西)
享年90



故 若田 等慧 氏(川西猪名川)
享年92



故 河合 迪雄 氏(篠山)
享年100



故 小林 常郎 氏(篠山)
享年95



故 佐井 奇正 氏(神戸東)
享年78



故 今津 成生 氏(神戸西)
享年91



故 小山 武 氏(神戸西)
享年87



故 池田 實行 氏(神戸西神)
享年83



故 吉田 泰弘 氏(神戸中)
享年79



故 高木 史郎 氏(高砂)
享年69



故 富田 裕樹 氏(加古川)
享年60



故 川西 正廣 氏(加古川中央)
享年91



故 田中 隆夫 氏(小野加東)
享年67



故 竹谷 重弘 氏(南淡路)
享年94



故 赤西 弘光 氏(姫路西)
享年72



故 岡本 昌典 氏(姫路西)
享年89



故 常村 武史 氏(姫路東)
享年83



故 大西 賢一 氏(相生)
享年78



故 井上 英士 氏(龍野)
享年87



故 喜多村隆博 氏(龍野)
享年65



故 下村 昇 氏(和田山)
享年85

大会役員

ガバナー	城 守	姫 路
代表幹事	三木 健義	姫 路
大会実行委員長	竹田 佑一	姫 路
大会実行副委員長	齋木俊治郎	姫 路
	津田 隆雄	姫 路
	高島隆三郎	姫 路

大会登録委員会

委員長	鎌谷 正弘	姫 路
副委員長	入江 道弘	姫 路

大会決議委員会

委員長	阪上 栄樹	宝 塚
委員	大附 一彦	尼 崎 中
	溝井 康雄	芦 屋 川
	飯田 健一	神 戸 南
	林 祝雄	明 石 北
	福永 信彦	北 条 東
	山田 一郎	姫 路 東
	松本 政信	和 田 山

大会信任状委員会

委員長	矢坂 誠徳	神 戸 西
委員	大森 英夫	伊 丹
	西上 俊彦	三 田
	平山 一哉	神 戸 中
	藤本 光一	加 古 川
	徳梅 明彦	あわじ中央
	箸蔵 法岳	上郡佐用

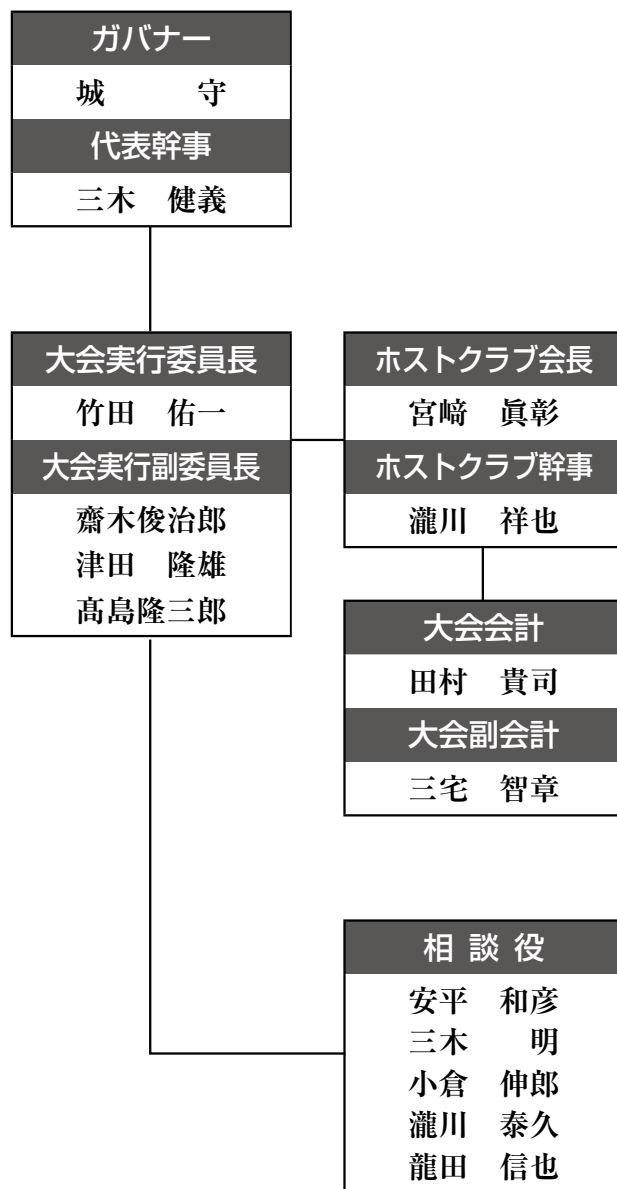
地区資金委員会

委員長	田村 貴司	姫 路
委員	笹倉 宣也	神 戸 西
	尾上 尚樹	姫 路 東

ガバナー指名委員会

委員長	高瀬 英夫	西 脇
委員	吉岡 博忠	伊 丹
	阪上 栄樹	宝 塚
	安行 英文	三 田
	矢坂 誠徳	神 戸 西

実行委員会組織図



第1部会 部会長 中村彰一郎	委員会	委員長	副委員長	委 員	
	総 務	竹田 佑一	三木 健義	中村彰一郎	宮崎 眞彰
	広報・記録	木谷 憲一	英 和夫	瀧川 祥也	城 守
	救 護	空地 顕一	岡田 裕之	三木 明	
				大池 玄承	
				福本 亮	山本 誠司
第2部会 部会長 鎌谷 正弘	委員会	委員長	副委員長	委 員	
	1日目 登録・受付	入江 道弘	福田 裕一	加藤達四郎	中上 幹雄
				利安 宏文	三宅 智章
				松本 敏郎	三木 崇弘
				尾上 英雄	濱中 剛
	2日目 登録・受付	山野 昭彦	井上登志男	石見満寿太	田隅 泰三
			澤田 安弘	山本 清輝	成瀬 悟
				穂積洋一郎	永井 敬裕
				山口 義弘	出田 啓之
				牛尾 啓三	増田 和郎
				坪井 良英	青山 泰立
				吉澤 伸治	岡本 章裕
				田中 智久	坂本 竜之介
				斎藤 靖典	高谷 秀二
				川口 直毅	菅原 英男
				小谷 彰	林 秀和
				鈴木 英治	黒田 直樹
	誘 導	米谷 啓和	横田 昌彦	田邊 浩平	中上 幹雄
				四宮 幹人	藤尾 健司
				堀川 智	
第3部会 部会長 天野 泰文	委員会	委員長	副委員長	委 員	
	国際ロータリー 会長代理ご夫妻 歓迎晩餐会		横田 昌彦	人見 嘉伸	谷本 省二
				澤井 敦史	森田 玲子
				山野 正豊	
	本会議	瀧川 祥也	赤鹿 竜夫	菊井 公策	田村 貴司
				日下部 聡	福田 裕一
				松本 敏郎	森田 一士
				山田 尚弘	近藤 誠一
				濱中 剛	尾上 英雄
				田中 清彦	大谷 敏博
				利安 宏文	
	会員家族 懇親会		山下 裕史	三木 崇弘	谷本 省二
	エクス カーション	菊井 公策	四宮 幹人	澤井 敦史	
				山下 裕史	澤田 安弘

(順不同)

(2026年3月8日現在 敬称略)

□ご来賓

兵庫県知事	齋藤 元彦	
姫路市長	清元 秀泰	
国際ロータリー会長代理 元国際ロータリー理事・パートナー	佐藤 芳郎 ・ 享 子	RID2690 岡山南
国際ロータリー理事・パートナー	水野 功 ・ 利津子	RID2750 東京飛火野
ロータリー財団管理委員／元国際ロータリー理事 辰野 克彦		RID2750 東京西
元国際ロータリー理事／元ロータリー財団管理委員／ 公益財団法人ロータリー日本財団 理事長・パートナー	三木 明 ・ 千 春	RID2680 姫路
国際ロータリー理事エレクト・パートナー	中谷 研一 ・ 雅 子	RID2550 足利東
国際ロータリー理事エレクト・パートナー	四宮 孝郎 ・ 庸 子	RID2660 大阪西南
第3地域ロータリー公共イメージコーディネーター・パートナー 瀧 満 ・ 真由美		RID2720 中津
第3地域ロータリー財団地域コーディネーター・パートナー 安行 英文 ・ 暁 子		RID2680 三田
第3地域恒久基金／大口寄付アドバイザー・パートナー 硯川 昭一 ・ 和歌子		RID2720 熊本江南
第3地域ポリオ根絶コーディネーター 藤井 秀香		RID2640 岸和田東
国際ロータリーラーニングファシリテーター(2025年・2026年) 滝澤 功治		RID2680 神戸須磨
元第2地域恒久基金／大口寄付アドバイザー 杉岡 芳樹		RID2780 相模原
国際ロータリー日本事務局 事務局長 土屋 博子		
国際ロータリー日本事務局 会員増強・体験推進室室長 尾畑 知洋		

□地区外参加者

〈同期ガバナー〉

2510地区ガバナー・パートナー	玉井 清治 ・ 優 子	RID2510 函館亀田
2520地区ガバナー・パートナー	加藤 智子	RID2520 仙台
2540地区ガバナー・パートナー	桑山 明久 ・ 幸 子	RID2540 本荘
2550地区ガバナー・パートナー	二十二 修 ・ 洋 子	RID2550 宇都宮北
2570地区ガバナー・パートナー	坂口 清子	RID2570 川越
2770地区ガバナー・パートナー	熊木 美香	RID2770 戸田

2840地区ガバナーパートナー	竹中 純子	RID2840 高崎北
2590地区ガバナーパートナー	大塚 広江	RID2590 川崎北
2600地区ガバナー	小林 磨史	RID2600 松本南
2620地区ガバナーパートナー	稲葉 千鶴	RID2620 伊東西
2750地区ガバナー・パートナー	田中 靖・友美	RID2750 東京小金井
2760地区ガバナー・パートナー	鈴木 康仁・佐千江	RID2760 蒲郡
2780地区ガバナー・パートナー	松下 孝・るり子	RID2780 伊勢原
2650地区ガバナーパートナー	小崎いず美	RID2650 京都北
2670地区ガバナー	織田 英正	RID2670 高知南
2690地区ガバナーパートナー	坂口 侑子	RID2690 米子南
2710地区ガバナーパートナー	土肥 朝子	RID2710 東広島21
2730地区ガバナー・パートナー	西本 幸則・清美	RID2730 延岡中央

〈ガバナーエレクト〉

2530地区ガバナーエレクト・パートナー	金田 昇・幸江	RID2530 白河西
2790地区ガバナーエレクト	森島 弘道	RID2790 新千葉

□2680地区ガバナー諮問委員会

ガバナー・パートナー	城 守 由 起	姫路
パストガバナー	神木 董	加古川
パストガバナー・パートナー	安平 和彦 佐千代	姫路
パストガバナー・パートナー	橋本 一豊 トシミ	神戸須磨
パストガバナー	石井 良昌	尼崎西
パストガバナー・パートナー	加藤 隆久 昌 子	神戸
パストガバナー・パートナー	宮本 一 陽 子	芦屋
パストガバナー・パートナー	中村 尚義 美 穂	洲本
パストガバナー	石丸鐵太郎	神戸南
パストガバナー・パートナー	大室 儒 和 代	宝塚武庫川
パストガバナー・パートナー	丸尾 研一 正 子	神戸西神
パストガバナー・パートナー	室津 義定 晴 美	尼崎中
パストガバナー・パートナー	瀧川 好庸 純 子	神戸西
パストガバナー・パートナー	矢野 宗司 多賀子	加古川中央
パストガバナー・パートナー	浅木 幸雄 隆 子	神戸
パストガバナー・パートナー	高瀬 英夫 静 子	西脇
パストガバナー・パートナー	吉岡 博忠 喜久子	伊丹
パストガバナー・パートナー	阪上 栄樹 和 子	宝塚
直前ガバナー／エイド・パートナー	矢坂 誠徳 ナヲ子	神戸西
ガバナーエレクト・パートナー	白井 務子 笛 華	姫路東
ガバナーノミニー・パートナー	田中 正喜 郁 子	尼崎東
ガバナーノミニー・デジグネート・パートナー	中村 滋彦 成 美	姫路南

□2680地区ガバナー補佐

尼崎グループ			ガバナー補佐 大附 一彦 (尼崎中)		
尼崎	尼崎北	尼崎東	尼崎西	尼崎南	尼崎中
阪神第1グループ			ガバナー補佐 大森 英夫 (伊丹)		
伊丹	川西	川西猪名川	西宮イブニング		
阪神第2グループ			ガバナー補佐 溝井 康雄 (芦屋川)		
西宮	芦屋	甲子園	西宮夙川	芦屋川	西宮恵美寿
阪神第3グループ			ガバナー補佐 西上 俊彦 (三田)		
宝塚 三田南	三田 HYOGOロータリーEクラブ	篠山	柏原	宝塚武庫川	
神戸第1グループ			ガバナー補佐 飯田 健一 (神戸南)		
神戸	神戸東	神戸東灘	神戸南	神戸六甲	
神戸第2グループ			ガバナー補佐 平山 一哉 (神戸中)		
神戸西	神戸須磨	神戸垂水	神戸西神	神戸中	神戸モーニング
東播第1グループ			ガバナー補佐 林 祝雄 (明石北)		
明石	明石東	明石北			
東播第2グループ			ガバナー補佐 藤本 光一 (加古川)		
高砂	加古川	加古川中央	高砂青松	加古川平成	
東播第3グループ			ガバナー補佐 福永 信彦 (北条)		
三木	小野加東	北条	西脇	三木みどり	
淡路グループ			ガバナー補佐 徳梅 明彦 (あわじ中央)		
洲本	南淡路	津名	あわじ中央		
東播第1グループ			ガバナー補佐 山田 一郎 (姫路東)		
姫路	姫路南	姫路西	姫路東	神崎	姫路中央
西播第2グループ			ガバナー補佐 箸蔵 法岳 (上郡佐用)		
赤穂	相生	龍野	上郡佐用		
但馬グループ			ガバナー補佐 松本 政信 (和田山)		
豊岡	生野	香住	豊岡円山川	和田山	

□特別参加者

プロバスケットボール：神戸北、垂水

ロータリー衛星クラブ：宝塚ユニバース

ローターアクトクラブ：姫路、神戸、淡路、柏原、芦屋川

インターアクトクラブ

2025-26年度長期青少年交換来日生

2026-27年度長期青少年交換派遣候補生

2025学年度米山記念奨学生

RYLA学友会

青少年交換学友会

ロータリー財団学友会

米山記念奨学生学友会 (兵庫)



〔編集後記〕

城守ガバナーの、ポリオ根絶への理解促進と地区内会員の団結へ向けた思いを結集した、国際ロータリー第2680地区2025-26年度地区大会の記録誌が完成いたしました。大会の開催にあたり、ご参加とご協力を賜りましたすべての皆様に、深く感謝申し上げます。

城ガバナーの行動指針「手に手つないで 革新的な行動をしよう!」に込められた思いを受け、ポリオ根絶と平和フェローへの理解を促進し、地区内各クラブの会員が交流を深め、未来への革新的な活動意欲を高めていただくことを願いつつ、竹田佑一大会実行委員長を中心に、姫路ロータリークラブ会員が一丸となって準備を重ねて参りました。この大会でご講演をいただいた、佐藤芳郎国際ロータリー会長代理、三木明（公財）ロータリー日本財団理事長、尾身茂結核予防会理事長をはじめ、地区の各委員会、各クラブ、ロータリーファミリー、そして地区事務所をはじめとする皆様の温かいご支援に、改めて深く感謝申し上げます。

この記録誌を通じて、城ガバナーの思いがすべてのクラブ会員の皆様に浸透し、当地区の未来への歩みへとつながっていくことを願いつつ、編集の締めくくりといたします。

代表幹事 三木 健義（姫路）

Rotary
District 2680



国際ロータリー第2680地区 2025-26年度 地区大会記録誌

発行	2026年8月31日
発行者	国際ロータリー第2680地区 大会実行委員会 (姫路ロータリークラブ)
編集	広報・記録誌委員会
印刷	菱三印刷株式会社



【ホストクラブ】
姫路ロータリークラブ

国際ロータリー第2680地区
2025-26年度 地区大会事務局

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6-10-1
神戸ポートピアホテル 本館7階 722号室
TEL (078)304-2680 FAX (078)304-2681
E-mail rid2680@abelia.ocn.ne.jp
地区サイト <https://dist.ri2680.org/>